

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給送圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L / 分)				
													(N)	(値)														
70	-35.79	80.00	花崗斑岩	明赤灰 に い 黄 橙	Cg	IIg	bg	γ	2	65.49~66.50m: 高角度の割れ目が卓越する。一部に最大幅2mmの石英脈。灰白色粘土を挟在する。	CM'	0	10	6/4	119					28.4	180							
				明赤灰 に い 黄 橙	Dg	IVg	cg		3	●66.50~66.77m: 破砕帯。 66.50~66.54m: 粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜は75~80°。灰黄色粘土からなる。 66.54~66.77m: 角礫状破砕部(Hj)。割れ目に沿ってシルトを挟む。下端の傾斜は40~50°。	D'	0	10										9.8	120				
				明赤灰 に い 黄 橙	Dg	IVg			3	66.77~69.59m: 高・低角度の割れ目が交差して発達し、岩片状を呈する。最大幅2mmの灰白色及び褐色粘土、幅1~3mmの石英脈を挟在する。	CL'	0	10								19.4							
				灰白	Dg				2	70.25~71.90m: 高角度の割れ目が卓越する。一部に幅2mmまでの灰白色粘土、幅4mmまでの石英脈を挟在する。	CL'	0	10									0.5	清水					
				灰白	IIIg		bg	γ	2	72.45~72.63m: 傾斜60°程度の割れ目が集中して発達する。 73.01~73.38m: 傾斜55~70°の平行な割れ目が発達する。一部に幅3mm以下の石英脈を挟在する。 73.50m: 幅10mmの石英脈を挟む。 73.50~74.61m: 高角度及び中角度の割れ目が発達する。一部に幅2mm程度の石英脈、褐色粘土を挟在する。	CM'	0	10										28.4					
				灰白	Cg					75.21~76.72m: 低角度の割れ目が優勢となる。	CM'	0	10															
				灰白	Dg	IVg				76.83~77.51m: 高角度の割れ目が優勢となる。	CL'	0	10															
				灰白	Cg	IIIg					CM'	0	10															
				灰白	Bg	Ig					CH	0	10															
				灰白	Bg	IIg						0	10															
				灰白	Bg	IIIg						0	10															
				灰白	Bg	IIg						0	10															
				灰白	Bg	IIIg						0	10															

ボーリング柱状図

調査名


事業・工事名

ボーリングNo.											12
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

ボーリング名	Br-12					調査位置		北緯	
発注機関						調査期間		東経	
調査業者名						主任技師		現代場人	
コ定ア者						コ定ア者		ボーリング者	
孔口標高	2.93 m	角			方			試験機 ハンマー落下用具	
総掘削長	100.00 m	度			向			ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分図	岩種	色調	硬軟	割れ目状態	風化	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	送水圧 (kN・MPa)	回水数 (rpm)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
													(N値)	(深度)													
		1.82	埋土	埋土	暗灰黄				0.00~1.11m: 埋戻土。 礫・シルト混じりの粗粒砂を主体とする。径2~10mmで花崗岩質の垂角礫を主体とする。			7.25				4/26	75	28.0	0	試掘							
		0.31, 2.62, 0.08, 2.85, -0.09, 3.02, -0.54, 3.47	シルト質砂	暗灰黄	暗灰黄				1.11~2.62m: 礫混じりシルト質砂。礫は径2~80mmの花崗岩質の垂角礫を主体とする。腐植片が混じる。 2.62~2.85m: シルト質砂。中~粗粒砂を主体とする。径2~5mmの垂角礫を僅かに含む。 2.85~3.02m: 腐植混じりシルト質砂中~粗粒砂主体。 3.02~3.47m: シルト質砂。中~粗粒砂からなる。			7.25								8.4	80	0.2	清水	1			
		4.77	シルト質砂	灰黄	灰黄				3.47~7.70m: 礫・シルト混じり砂。3.47~4.00m: 不均一な砂からなる。径2~20mmの垂角~垂円礫を含む。 4.66m: 径20mmの花崗岩質の風化礫を挟在する。 7.70~10.35m: シルト混じり礫質砂。7.70~9.70m: 粗粒砂を主体とする。径2~7mmの垂角礫を含む。径1~3mmの暗色岩片が点在する。 8.70~9.25m: 中粒砂を主体とする。径2~5mmの垂角礫を含む。 9.25~10.35m: 粗粒砂を主体とする。径2~10mmの垂角礫を含む。					7.25													
		7.42	シルト混じり礫質砂	灰黄	灰黄				10.35~13.10m: 礫混じりシルト質砂粗粒砂を主体とする。径2~10mmの垂角~垂円礫を含む。腐植片が点在する。 10.80~12.00m: 二枚貝及び巻貝の破片を挟在する。 12.00~13.10m: 貝殻片を挟在する。								4/28	273	100			28.4	60	0.1	清水	3	
		12.29	礫混じり砂	オリイフ黄	オリイフ黄				13.10~15.22m: 礫混じり砂。粗粒砂を主体とする。径2~7mmの垂角~垂円礫を含む。貝殻片を挟在する。 14.72m: 腐植片を挟在する。 15.22~17.88m: 貝殻混じり砂。粗粒砂を主体とし、径2~5mmの垂角~垂角礫を含む。二枚貝の破片を挟在し、所々濃集する。 15.20~15.50m, 15.90~16.75m, 16.95~17.00m, 17.60~17.70m: 二枚貝の貝殻片が濃集する。 16.23m: 暗褐色有機物を挟在する。 17.60~17.70m: 腐植片を挟在する。																		
		14.95	貝殻混じり砂	灰オリイフ	灰オリイフ				17.88~20.00m: 花崗斑岩。 17.88~20.04m: 傾斜60~70度の割れ目が交差する。 20.40m, 20.72m: それぞれ傾斜80度、55度の割れ目に沿って幅1mmの石英脈を挟在する。 23.25~24.80m: 幅0.5~1mmで灰白色脈を挟在する割れ目が多い。高角度の割れ目に沿って幅2~10mmの黒色酸化物を挟在する。																		
		20	花崗斑岩	Eg IVg, Vg, Dg IIIg, IVg, Cg IIIg, Dg IVg, Cg IVg	Eg IVg, Vg, Dg IIIg, IVg, Cg IIIg, Dg IVg, Cg IVg		δ	2, 3, 2	24.60~24.80m: 密着した割れ目が見らるるである。 24.75~25.01m: 幅5mmで礫状を呈する。礫径は3~10mm。 24.80~26.17m: 幅0.5~1mmの灰白色脈を挟在する。 25.00~26.00m: 傾斜60度の平行な割れ目が発達する。								4/29	208			49.8						
		20	花崗斑岩	Dg IIIg, IVg, Cg IIIg, Dg IVg, Cg IVg	Dg IIIg, IVg, Cg IIIg, Dg IVg, Cg IVg		γ	3																			
			花崗斑岩	Dg IVg, Cg IVg	Dg IVg, Cg IVg																						
			花崗斑岩	Dg IVg, Cg IVg	Dg IVg, Cg IVg																						
			花崗斑岩	Dg IVg, Cg IVg	Dg IVg, Cg IVg																						
			花崗斑岩	Dg IVg, Cg IVg	Dg IVg, Cg IVg																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)				
														(N値)	(深度) 図														
70			花崗斑岩	明黄褐	Eg	Vg		δ		63.05~63.20m: 傾斜70°で幅30mm程度に石英が濃集する。 63.28~65.20m: 傾斜70~80°と20~30°の割れ目が交差し、礫状を呈する。 63.50~63.90m: 傾斜80°で幅2~5mmに石英が濃集する。 64.60~64.93m: 幅1~3mm白色粘土を挟在する。	D			0	10														
										66.12~67.15m: 不規則に高・低角度の割れ目が発達し、礫状を呈す。 67.15~68.00m: 傾斜45~60°の平行な割れ目が発達する。 68.00~70.50m: 傾斜70~90°の割れ目が不規則に発達して、礫状を呈する。 69.60m: 幅5mmの硬質な白色粘土を挟在する。 70.26~70.66m: 幅2~6mmの白色粘土を挟在する。 71.55~71.95m: 傾斜60~70°の割れ目が密集する。 ●71.95~72.72m: 破砕帯。 71.95~72.64m: 角礫状破砕部(Hj)。上端に幅2~10mmの灰白色粘土を挟在する。傾斜70°。 72.64~72.72m: 粘土状破砕部(Hc-1)。幅5~10mmのやや軟質な明黄褐色粘土からなる。傾斜は80°。 73.30m: 幅1mmの黄白色粘土を挟在する。傾斜55°。 74.44~76.78m: 傾斜10~30°と60~90°の割れ目が発達し、岩片状を呈する。 75.20~76.90m: 径3~10mmの淡緑色の変質した鉱物が点在する。																			
80			花崗斑岩	淡黄	Dg	cg		3		76.78~78.65m: 傾斜45~60°程度の割れ目が卓越する。 78.65~80.63: 径3~10mm程度の淡緑色の変質した鉱物が点在する。 79.12m~79.44m: 幅5~10mmの黒色酸化物を挟在する。 80.00m: 幅3mmの灰白~黄白色粘土を挟在する。 80.03~80.63m: 傾斜55~65°の平行な割れ目が卓越する。 80.10m: 幅3mmの灰白~黄白色粘土を挟在する。 81.02~82.36m: 傾斜50~70°の平行な割れ目が卓越する。 81.27m: 幅4mmの茶褐色粘土を挟在する。 82.50m: 傾斜40°, 幅1mmの灰白色粘土を挟在する。 83.94~86.80m: 割れ目が密に発達し、岩片状を呈する。	CL'			0	10														
										86.42m: 幅2mmの灰白色粘土を挟在する。 86.80~89.26m: 傾斜20°前後と60~80°の割れ目が交差し、礫状を呈する。 88.15m: 幅20mmの硬い灰白色粘土を挟在する。 ●89.68~90.32m: 破砕帯。 89.68~90.24m: 角礫状破砕部(Hj)。上端の傾斜は50。下端の傾斜は75°。割れ目に沿って網目状に灰白色粘土を挟在する。 90.24~90.32m: 硬混じり粘土状破砕部(Hc-2)。幅4mmの細礫混じり褐色粘土及び幅10~15mmの明緑灰色粘土を挟在する。下端の傾斜は85°。 90.35~92.20m: 割れ目が網目状に発達し、岩片状を呈する。 90.55m: 幅5mmの淡緑色の粘土混じり砂を挟在する。 92.20~93.53m: 岩片状~礫状を呈する。 94.99~95.71m: 網目状の割れ目が灰白色粘土を挟在し、軟質になる。下端に幅5mmの角礫混じり黄色粘土を挟み、傾斜は85°。																			
90			花崗斑岩	明黄褐	Vg		δ			97.35~97.57m: 幅1mmの灰白色粘土を挟在する割れ目が発達する。 97.70~98.15m: フィルム状~幅2mmの灰白~黄白色粘土を挟在する。	D			0	10														
										97.35~97.57m: 幅1mmの灰白色粘土を挟在する割れ目が発達する。 97.70~98.15m: フィルム状~幅2mmの灰白~黄白色粘土を挟在する。																			

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm ← R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)	
														(N 値 ~ 深度) 図																
	-97.07	100.00		花崗閃岩	にぶい 色 黄 赤	Cg Dg	IVg Vg	cg	γ	2 3	99.29~100.00mm: 傾斜70°程度と30°前後の割れ目が交差し、礫状を呈する。径3~20mmの鉱物からなる完晶質岩となる。	CL										5/18	119			28.4	100	0.1	清水2	1

余白

5. 委託報告書(平成30年) ボーリング柱状図

余白

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.																			
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

ボーリング名	B8-15		調査位置		北緯				
発注機関					調査期間	東経			
調査業者名				主任技師	現代場人	コ鑑	ア者	ハンマー	ポンプ
孔口標高	6.92 m	角上	180°	方	北 0°	地盤勾配	水平 0°	試錐機	ハンマー
総掘削長	70.00 m	度下	25.0°	向	270°西	鉛直	0.0°	エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種	色	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	標準貫入試験		孔内水位 (m) / 測定月日	岩級区分	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN/MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
											(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値														
											0 10 20 30 40 50															
										0,00~12,64m : ノンコア								140 / シンデルコアチユーラ/メタルクワン	0.0	0						
	-4.54	12.64	●●●●	硬質砂	明緑灰					12.64~31.42m : 磯混じり砂質土主体の第四系である。 12.64~15.92m : 磯質砂である。 シルトの混じる砂からなる。石英、長石の細礫および最大90mmの花崗斑岩重円～亜角礫を20~30%含む。 13.17~13.49m : シルト分が多く、礫を多く含む。 14.71~15.00m : 磯率は50~60%で、固く締まる。 15.00~15.49m : 礫を多く含む。 15.52m以浅はシルト分を含む。	(100%)								114 / ケーシング				13.0	120	0.0	泥水4

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm)	送水 (L/分)	送水圧 (MPa)	回転数 (rpm)	給圧 (kN・MPa)	排水量 (L/分)																	
															(N 値 ~ 深度)	図																											
50	39.41	51.12	花崗斑岩	灰白	Eg	Dg	Vg	cg	dg	δ	41.52~42.06m: 上位に比べ割れ目は明瞭で、やや硬い。	0	D'	9/1	83	-	-	-	-	83	-	-	-	-	-	-	-	-															
																													浅黄橙	Dg	Vg	cg	γ	42.06~44.77m: 全体に風化し軟質化している。長石類は白濁し、有色鉱物は褐色を帯びる。	5	5	80	0.2	泥水5				
																													灰白	Eg	Dg	Vg	cg	γ	44.77~45.48m: コアは軟質である。割れ目は不規則に分布し、割れ目沿いは褐色化しマンガンが付着している。	135	135	10.0	80	0.2	泥水5		
																													明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	45.48~48.79m: 上位に比べて風化の程度が弱い。コアは片状~短柱状が主体で、多くの割れ目沿いに酸化汚染とマンガンが付着している。	140	140	9/1	80	18.0	120	0.2	泥水3	
																													灰白	Eg	Dg	Vg	cg	2	48.79~49.22m: コアは岩片状~砂礫状を呈する。ハンマーで容易に崩壊する。岩片は径5~30mm程度が主体である。下端に幅3mm程度の暗褐色の粘土を伴う。	96	96	9/2	94	30.0	150	0.3	泥水10
																													明褐灰	Dg	Vg	cg	β	49.22~50.05m: 所々に傾斜50°程度の割れ目が発達する柱状コアが主体である。割れ目沿いに酸化し汚染している。	83	83	9/2	94	30.0	150	0.3	泥水10	
																													灰白	Eg	Dg	Vg	cg	2	51.12~70.00m: アブライトである。細粒で少量の石英、長石の斑晶からなる。	96	96	9/2	94	30.0	150	0.3	泥水10
																													明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	51.69~53.42m: 全体に褐色に酸化し汚染している。柱状コアが主体である。	83	83	9/2	94	30.0	150	0.3	泥水10	
																													灰白	Eg	Dg	Vg	cg	γ	53.42~56.06m: 傾斜30~70°程度の割れ目が3~5cm間隔で発達する。コアは岩片状~短柱状が主体である。割れ目沿いに褐色に汚染している。所々に淡赤白色のシルトを伴う。	96	96	9/2	94	30.0	150	0.3	泥水10
																													明褐灰	Dg	Vg	cg	β	56.22~57.58m: 傾斜30~60°の割れ目が3~5cm間隔で発達する。岩片状コアが主体である。	83	83	9/2	94	30.0	150	0.3	泥水10	
																													灰白	Eg	Dg	Vg	cg	δ	57.58~57.78m: 一部、角礫混じり土砂状を呈する。	96	96	9/2	94	30.0	150	0.3	泥水10
																													60	-	-	アブライト	灰白	Eg	Dg	Vg	cg	β	2	59.14~59.71m: 傾斜60~80°を主とする割れ目が網目状に発達する。コアは角礫状~片状化している。	-	D'	9/3
明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	60.07~60.77m: 割れ目沿いで酸化し汚染を受け褐色化している。	130	130	20.0	100	0.3	泥水10																																
浅黄	Eg	Dg	Vg	cg	γ	61.00~61.95m: 酸化汚染が強く、岩芯まで褐色化し、有色鉱物のすべてが赤褐色化している。	60	60	20.0	80	0.2	泥水5																															
明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	63.38~63.86m: 傾斜20~40°の割れ目が5cm間隔で発達する。割れ目沿いに劣化し、細片化する。	69	69	20.0	80	0.2	泥水5																																
灰白	Eg	Dg	Vg	cg	γ	64.23~64.99m: 傾斜40~60°の割れ目が3~5cm間隔で発達する。割れ目沿いに劣化する。	71	71	20.0	80	0.2	泥水5																															
明褐灰	Dg	Vg	cg	β	66.22~67.38m: 上端傾斜が75°、下端傾斜が65°の割れ目を境界として、径20~80mm程度の角礫状花崗斑岩と隙間を充填する礫混じり砂(流入砂)からなり、全体として砂礫の様相である。	60	60	20.0	80	0.2	泥水5																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
													N	値															
	56.52	70.00	* * * * *	ア フ ラ イ ト	灰黄	Cg	cg	γ	67.38~68.04m: 傾斜10~20°と、傾斜70°の割れ目が5~8cm間隔で発達する。割れ目沿いに岩片化している。 68.04~68.24m: 角礫状を呈する。 69.46~70.00m: 微細な割れ目が少ない短柱状のコアが主体である。				0	10	20	30	40	50											
					明褐灰	Eg	dg	δ											60										
					灰褐	Cg	IVg	cg		γ									9/4	120	86 泥水	20.0	80	0.2		0			
					明褐灰	Cg	IVg	cg		γ										88									
					灰黄	Bg													60										

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo. 1

事業・工事名

ボーリング名	B8-21			調査位置	北緯
発注機関				調査期間	東経
調査業者名				現代理人	ボーリング者
主任技師				コ定ア者	
使用機種				ハンマー	
エンジン				ポンプ	
開口標高	7.28 m	角上	180° 90° 45.0°	方北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配 鉛直 0.0°
総掘削長	240.00 m	角下	0°	向 143.0°	

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種	色調	硬軟	コ形状	割れ目	風変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図						室内試験 (孔内水平載荷)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) ノ孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)					
													0	10	20	30	40	50												
	0.00		埋土	黄灰	硬				0.00~3.00m: 埋土である。 0.00~0.12m: 粗粒砂からなる。植物根が混じる。 0.12~1.42m: 礫混じり砂からなる。最大10mmの礫をまれに含む。	0																				
	5.16	3.00	砂礫	黄灰	硬				1.42~1.93m: 有機物混じりシルト質砂からなる。細粒~粗粒砂からなり全体に有機物・シルトが混じる。全体に不均質である。 1.92~2.38m: 礫混じり砂からなる。 2.38~3.00m: シルト質砂からなる。	0										0	0	0	0	0						
	4.56	3.84	スライム	灰白	硬				3.00~37.67m: 礫・砂主体の第四系である。 3.00~3.84m: 砂礫である。径5~30cmの硬質な亜角~亜円礫を60~70%含む。基質は細礫の混じる中~粗粒砂からなる。 3.48~5.00m: スライムである。	0															0	0	0	0		
	3.74	5.00	砂礫	灰	硬				5.00~5.30m: 砂礫である。シルトを多く含む中粒砂の礫混じりシルト質砂で炭化物が散在する。	0														0	0	0	0			
	3.53	5.30	礫	黄灰	硬				5.30~6.92m: 礫である。花崗斑岩の硬質な岩塊からなる。 6.45~6.92m: 硬質な花崗斑岩と粗粒砂の基質からなる砂礫である。	0														0	0	0	0			
	2.39	6.92	明黄褐色 礫混じり砂	灰白 浅黄 黄褐 浅黄	硬				6.92~10.30m: 礫混じり砂である。シルトを混入する不均質な砂が主で、径2~4mmの石英細礫を混入する。	0														0	0	0	0			
10	0.00	10.30	明黄褐色 明オリーブ灰 灰白 明黄褐色 明オリーブ灰 灰白	明黄褐色 明オリーブ灰 灰白	硬				10.30~15.15m: 礫質砂である。砂は細~中粒砂からなり、シルトを混入し不均質である。礫は径2~6mmの石英からなる細礫が主で、径20~40mmの半クサリ礫も分布する。良く締まる。	0														0	0	0	0			
			明黄褐色	明黄褐色	硬					0														0	0	0	0			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
													N	値														
	-3.43	15.15	砂礫	灰白					15.15~17.00m: 砂礫である。径3~5mmの石英細礫が主で、径20~130mmの花崗斑岩半クサリ礫を混入する。礫率は30~50%程度である。砂は細~粗粒砂で不均質である。16.46~17.00m: 礫量が減少しシルトが混じる細~粗粒砂の礫混じり砂を呈する。	0	50	100	7/21	115	2.0	180	0.2	泥水 3	2									
	-4.74	17.00	スライム	灰白					17.00~17.48m: スライムである。17.48~17.78m: 礫混じり砂質シルトである。17.60m以浅は有機質が多いが、17.60m以深では僅かとなる。17.78~19.46m: 礫混じりシルト質砂である。シルトを多く含む不均質な砂で細礫が混じる。全体に腐植物が散在し、17.78~18.60m間では葉理を示す。	0	50	100																
	-5.08	17.48	有機質シルト	灰白					19.46~19.73m: 有機質砂である。有機物が混入する不均質な砂からなる。	0	50	100																
	-5.29	17.78	有機質シルト	灰白					19.73~22.00m: 礫質砂である。石英主体の細礫が優勢で中礫も含む。	0	50	100																
20	-6.48	19.46	有機質砂	灰白					22.00~22.63m: 有機質土混じり礫質砂である。不均質な砂が主となる。傾斜45°で有機物の定向配列が認められる。22.63~23.64m: 礫質砂である。23.14m以深: 多量のシルトと如々に炭化物を含む不均質な砂を呈する。	0	50	100																
	-6.67	19.73	有機質砂	灰白					23.64~24.43m: 砂礫である。径2~20mmの垂角礫が主となる。上部は砂質である。	0	50	100																
	-8.28	22.00	有機質土混じり礫質砂	灰白					24.43~25.28m: スライムである。	0	50	100																
	-8.72	22.63	有機質土混じり礫質砂	淡黄					25.28~26.51m: 礫混じり砂である。礫の分布は不均質である。25.40m以浅は下部に比べ礫径、礫率とも大きい。	0	50	100																
	-9.44	23.64	有機質土混じり礫質砂	灰					26.51~27.67m: 砂礫である。26.51~28.00m: 径5~50mm (最大径250mm)の垂角~亜円礫を含み、礫率は50~80%である。半クサリ礫が主体で31.80m以浅では硬質礫が残留する。31.80m以深ではほぼすべてが半クサリ礫を呈する。基質はシルトが混じる不均質な砂である。	0	50	100																
	-9.99	24.43	有機質土混じり礫質砂	淡黄					30.90~31.80m: 堅硬・緻密な花崗斑岩巨礫からなる。	0	50	100																
	-10.60	25.28	スライム	灰白					34.35m: 幅7mmの灰色の粘土を挟在する。	0	50	100																
	-11.47	26.51	礫混じり砂	灰白					35.40~35.79m: 径2~10mmの礫が主体となる。	0	50	100																
30				灰白					37.56~37.67m: 基質は粗粒砂~細礫からなる。	0	50	100																
	-19.36	37.67	花崗斑岩	にぶい黄					37.67~73.60m: 花崗斑岩である。斑晶が少ない石基主体のアブライト質花崗斑岩からなる。黒雲母の含有率は5%程度である。38.66~38.82m: 岩芯まで著しく軟質化する。38.82~39.42m: 傾斜50~60°の割れ目が2~5cm間隔で分布する。39.42~39.83m: 硬質でハンマー打撃で鈍い金属音を発する。39.95~42.20m: 割れ目密集部が多く、割れ目に白色~黄白色の軟質物を挟在する。	0	50	100																
40				にぶい黄																								
				灰白																								
				明灰褐																								
				浅黄																								
				灰黄																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記	コア採取率 (最大コア長) ← (%) → R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (測定月日) (N) 値	標準貫入 (試験) (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水深標準) 室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
														0	10	20	30	40											50																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
			花崗斑岩	灰白	Ilg	Vg	Cg	γ	2	41.79~42.09m: 上下位と比べて風化が進行し軟質である。	100	CL'									7/26	110	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	180	0.2	泥水8	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
																													灰黄	Vg	Cg	γ	2	47.70~48.50m: 傾斜60~70°の割れ目が10cm間隔で交錯する。	100	CL'											7/27	100	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	0.4	泥水8	8																																																																																																																																																																																																																																																																																			
																																																						灰白	Vg	Cg	γ	2	49.88m: 傾斜50°, 幅2~3mmの淡赤白色の砂混じり粘土を挟在する。	100	CM'											7/28	80	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	1.0	泥水9	6																																																																																																																																																																																																																																																										
																																																																															灰白	Vg	Cg	3	2	49.88~50.47m: 傾斜30~40°の割れ目が1~2cm間隔で分布する。	100	CL'											7/28	85	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	0.3	泥水9	6																																																																																																																																																																																																																																	
																																																																																																								明褐灰	Vg	Cg	γ	2	51.96~52.26m: 白色に脱色し一部は軟質である。脱色変質部である。下端に褐色酸化部を伴う。傾斜は48°, 幅は5~13mmである。	100	CM'											7/28	95	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	0.2	泥水9	6																																																																																																																																																																																																								
																																																																																																																																	明褐灰	Vg	Cg	γ	2	53.02~53.14m: 脱色変質し岩組織・割れ目は不明瞭、軟質化している。	100	CM'											7/28	85	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	150	泥水9	6																																																																																																																																																																															
																																																																																																																																																										明褐灰	Vg	Cg	γ	2	53.73~55.14m: 傾斜40~60°および75°以上の高角度割れ目が発達する。割れ目面の多くにマンガンの付着する。	100	CM'											7/29	95	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	0.3	泥水6	4																																																																																																																																																						
																																																																																																																																																																																			灰白	Vg	Cg	2	55.14~56.64m: 概ね硬質である。多くの割れ目にマンガンの付着する。	100	CM'												7/29	120	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	2.0	泥水9	4																																																																																																																													
																																																																																																																																																																																																												灰白	Vg	Cg	3	60.68~61.46m: 傾斜30°と60°の割れ目が0.5~3cm間隔で分布する。割れ目交錯部分で脆弱化している。	100	CM'												7/29	100	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	0.3	泥水9	4																																																																																																				
																																																																																																																																																																																																																																					明褐灰	Vg	Cg	γ	2	61.66~62.06m: 傾斜約45°の割れ目が0.5~1cm間隔で発達し、これらに傾斜70°の割れ目が交錯し岩は脆弱化している。	100	CM'											7/30	95	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	0.4	泥水8	3																																																																											
																																																																																																																																																																																																																																																														明褐灰	Vg	Cg	γ	2	62.33~63.77m: 傾斜30°と60°割れ目が発達し交差部分は砂状~角礫状化している。	100	CM'											7/30	100	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	0.4	泥水8	3																																																		
																																																																																																																																																																																																																																																																																							明褐灰	Vg	Cg	γ	2	65.04~65.89m: 傾斜10~20°または60~80°の割れ目が集中する部分は角礫状化している。	100	CM'											7/30	95	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	0.2	泥水8	0																									
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																灰白	Vg	Cg	2	66.34~67.37m: 傾斜10~20°と60°の割れ目が1~10cm間隔で発達する。一部で黄褐色白色~褐色のシルトを挟在する。	100	CM'												7/30	95	ダブルノリコチロニン / メタルバレル	86 / 泥水	0.2	泥水8	0

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q C D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ペット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
													N	値																
70		花崗斑岩	灰白	明褐灰	Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	68.03~68.28m: 割れ目が0.5~1.5cm間隔で網目状に発達する。	0.5	CL'			95			7/30		150	0.2		泥水 8	0							
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2		0.5	CL'			130				180	0.5		泥水 8	0					
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	70.46~70.53m: 上端傾斜が90°, 下端傾斜が50°の固結した角礫状を呈する。	0.5	CL'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	71.28~71.75m: 硬質である。ハンマー打撃で金属音を発する。	0.5	CL'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	72.43~72.94m: シルト混じり砂礫状を呈する。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	73.60~160.40m: アブライトである。上端、下端とも花崗斑岩との境界は漸移的である。	0.5	CL'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2		0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2		0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2		0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	75.56~76.01m: 径5~50mmの亜角礫を含む砂礫状コアを呈する。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	76.01~77.36m: 傾斜50~60°の割れ目が5~10cm間隔で発達する。一部で土砂化~細粒化している。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	77.36~77.88m: 傾斜40°と70°の割れ目が5~10cm間隔で交錯する。コアは岩片状で硬質である。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	78.30~78.32m: 明黄褐色の砂-礫混じりシルト状を呈する。傾斜60°, 幅7~13mmである。	0.5	D'																
80					アブライト	灰白	明褐灰	Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	●79.86~80.17m: 破砕帯 (f-b8-21-1) 破砕幅は18.7cmである。 79.86~79.87m: 淡赤白色の砂混じりシルト状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.9cmである。 79.87~80.17m: 粘土質砂礫状を呈し、灰黄色の固結した礫状部からなる。	0.5	D'																
											Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	80.17~80.50m: 微細な割れ目が密集し、コアは主に細片状を呈する。 80.76m: 割れ目が多く、傾斜30°, 幅8mmのシルト混じり砂礫状を呈する	0.5	D'													
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	81.03~82.37m: 割れ目間隔が広く、50~100mmの柱状コアが主となる。 82.37~83.90m: 傾斜30~50°及び20°以下の割れ目が1~2cm間隔で発達する。コアは岩片状が主となる。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	84.92~86.67m: 割れ目が多い。傾斜50°前後の割れ目が発達する。一部で割れ目沿いに変質が進み土砂状を呈する。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2		0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2		0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	●88.67~88.71m: 破砕帯 (f-b8-21-2) 破砕幅は3.2cmである。 88.67~88.70m: 砂混じりシルト状を呈し、黄白色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°, 下端境界の傾斜は38°である。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	88.70~88.71m: 褐色の未固結の粘土状部からなり、幅は0.2cmである。傾斜は38°である。 88.96~89.34m: シルト混じり砂礫状コアで、上端傾斜が45~50°, 下端傾斜が30°の割れ目で境される。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2		0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	●92.86~93.53m: 破砕帯 (D-5) 破砕幅は17.0cmである。 92.86~93.06m: 角礫状を呈する。褐色の割れ目の密集部からなる。角礫の径は5~30mmからなり、固結している。 93.06~93.50m: 粘土混じり角礫状を呈し、褐色の固結した礫状部からなる。下部は細粒分に富んでいる。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2	93.50~93.53m: 褐色の塊混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.8cmである。傾斜は75°である。	0.5	D'																
								Dg IVg Bg IVg	cg	γ	2		0.5	D'																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	掘進 掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														(N)	(値)												
				褐灰	Eg	Vg	dg	δ	3			D'		0	10			8/6	135				0.3	泥水 10	0	0	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	95.56~95.87m: 風化により、粘土質角礫状コアを呈する。																	
				明褐灰	Eg	Vg	dg	δ	4																		
				明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	95.87~96.60m: 岩片は硬質である。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	97.32~97.44m: シルト質砂礫状部である。礫は角礫で固結している。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	100.18~100.67m: 上下位に比べて硬白質となり、割れ目沿いに細片化~細粒化している。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	101.81~102.90m: 上位に比べて微細な割れ目が発達、割れ目沿いに細片化~細粒化している。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	104.00~107.68m: 岩質はやや硬質化している。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	107.69~109.10m: 割れ目間隔は1~15cmで、傾斜50°のものが発達し斜交する。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	109.41~109.96m: 割れ目頻度は少なく、割れ目沿いは軽微な細片化している。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	110.64~112.09m: 割れ目間隔は3~6cm、割れ目沿い及び岩芯が斑状に酸化する褐色化している。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2																		
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	112.09~112.68m: 微細な縦方向の割れ目が分布するが、岩片は硬質である。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	113.08~113.12m: 割れ目沿いに褐色化している。傾斜45°、幅30mmである。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	113.12~113.43m: 微細な割れ目に白色の粘土脈が網状に分布する。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	113.53~114.84m: 縦方向の微細な割れ目が発達する。下端境界は明確で傾斜60°である。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	115.85~116.79m: 割れ目沿いに褐色化している。上部はマンガンに富む。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	116.79~117.27m: 微細な割れ目がみられるが岩片自体は硬い。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	117.27~117.59m: 軟質化し微細な割れ目と淡黄色の変質鉱物が分布する。																	
				明褐灰	Eg	Vg	cg	γ	2	118.11~118.22m: 脱色し不規則に灰白色の粘土を伴う。																	

標尺	高度 (m)	深	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級	最大コア長 (cm)	R Q D M L [%]	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / 10 / ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
																	(N値~深度) 図																					
		120			灰白	IVe					119.05~119.88m: 傾斜50~60°の割れ目が卓越し斜交する。すべての割れ目沿いに褐色化し一部で細片化している。	0						0	10	20	30	40	50															
					明褐灰	Cg					120.38~123.73m: 傾斜30~60°とこれに交差する低角度の割れ目が発達し、コアは岩片~角礫状を呈する。	1																										
					灰白	IVe					121.60m: 傾斜60°、幅10mmの灰白色の粘土が挟在する。	2																										
					褐灰	IIIe					122.70~122.77m: 割れ目沿いに幅4~5mmで褐色の粘土が挟在する。その周縁で幅40mm程度が風化で褐色化している。	3																										
					灰黄褐	IVe					124.10~124.50m: 岩芯には斑状、割れ目沿いは帯状の酸化褐色部が分布する。岩芯の一部に新鮮部が残留している。	4																										
					明赤灰	Dg					125.32~125.43m: 傾斜50°の割れ目が密集する。	5																										
					灰黄褐	IVe					125.97~126.05m: 角礫状を呈する。上下端に、上端傾斜50°、下端傾斜40°の粘土を伴う。	6																										
					明赤灰	Dg					128.26~128.71m: 傾斜60°の割れ目と高角度の割れ目が交差し扇目状を呈する。わずかに浅黄色の粘土を伴う。	7																										
					明赤灰	Dg					129.03~129.85m: 傾斜45~60°の割れ目が主となる。硬質である。129.85~130.82m: 上位に比べて岩盤が変化し、傾斜45~60°の割れ目に不規則な割れ目が斜交する。	8																										
		130			明赤灰	Dg					●131.03~131.14m: 破砕部 破砕幅は0.7cmである。 粘土混じり砂礫状を呈する。灰黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は02°、下端境界の傾斜は40°である。	9																										
					明赤灰	Dg					131.28~131.83m: 角礫状を呈する。扇目状に破砕され固結している。	10																										
					明赤灰	Dg					●131.88~132.82m: 破砕部 破砕幅は52.6cmである。 131.88~132.81m: 粘土混じり角礫状を呈する。褐灰色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は60°である。上端で幅5cmにわたりマンガンが濃集し、せん断面には緑灰白色の粘土が分布する。	11																										
					明赤灰	Dg					132.81~132.82m: 暗褐色の未固結の粘土状部からなり、幅は0.4cmである。下端境界の傾斜は60°である。	12																										
					明赤灰	Dg					●135.30~135.52m: 破砕部 破砕幅は12.9cmである。 135.30~135.32m: 灰褐色の粘土混じり砂状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.5cmである。	13																										
					明赤灰	Dg					135.32~135.44m: 粘土混じり砂状を呈し、浅黄褐色の固結した礫状部からなる。幅10mm程度のマンガンが帯状に分布する。	14																										
					明赤灰	Dg					135.44~135.46m: 浅黄褐色の固結した砂状部からなる。上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は34°である。	15																										
					明赤灰	Dg					135.46~135.52m: 粘土混じり砂状を呈し、浅黄褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は60°である。	16																										
					明赤灰	Dg					●137.72~138.18m: 破砕部 破砕幅は41.7cmである。 137.72~137.73m: 赤褐色の未固結の粘土状部からなり、幅は0.5cmである。	17																										
					明赤灰	Dg					137.73~137.87m: 粘土混じり砂状を呈し、浅黄褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は55°である。	18																										
					明赤灰	Dg					137.87~138.18m: 浅黄褐色の割れ目の密集部からなる。	19																										
					明赤灰	Dg					141.87~146.10m: 傾斜45~60°の割れ目が発達する。	20																										

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D └ [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進 月 日	孔径 (mm)	コアカチューブ ノット	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)						
															(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値																	
150			花崗斑岩	アプライト	にぶい橙	Cg	IVg			γ	2	148.92~149.04m: 暗緑色の変質鉱物が分布する。	14	CL'		10	125			8/21	90												
					灰黄	Dg	Vg			2	149.04~149.63m: 傾斜60~70°の割れ目が0.5~5cm間隔で発達する。薄片状コアが主で新鮮で硬い。	10	CL'		9																		
					明赤灰	Cg	IVg			3	151.00~151.45m: 一部にマンガン汚染がみられる。	7	CL'		10																		
					褐灰	Dg	Vg			2	152.00~153.00m: 微細な割れ目が発達する。すべての割れ目がマンガンで汚染されている。	10	CL'		6																		
														δ	3	153.65m: 傾斜70°、幅1~2mmで褐色の粘土状を呈する。幅2~3mmの固結したマンガン脈を伴う。	7	CL'															
											153.65~153.80m: 角礫状を呈し、劣化部である。方解石脈を伴う。	15	CL'																				
											155.31m: 傾斜80°、幅0.5mmの淡灰白の色粘土が挟在する。	7	CL'																				
											156.00~156.37m: 傾斜70°程度の割れ目が発達する。これと斜交する微細な割れ目が分布する。	7	CL'																				
											156.37~158.17m: 上位に比べて割れ目頻度は少ない。すべての割れ目にマンガンが付着する。	6	CL'																				
											158.63~159.27m: 暗緑色の変質鉱物が分布する。珩晶含有率は1%程度である。	9	CL'																				
											159.60~160.84m: 傾斜40~45°の割れ目が発達し、傾斜70°の割れ目を伴う。割れ目沿いは細粒化している。	7	CL'																				
											160.40~240.00m: 花崗斑岩である。アプライトとの境界は漸移的である。	8	CL'																				
160			花崗斑岩	アプライト	にぶい橙	Cg	IVg		γ	3	160.84~161.49m: 上下位に比べて岩盤が劣化し、割れ目の頻度が大きい。	8	CL'																				
					明赤灰	Dg	Vg			2	161.49~162.80m: 緑灰色化する。傾斜70°の割れ目が優勢である。割れ目沿いに微細な割れ目を調和的に伴う。	18	CM'		17																		
					明緑灰	Cg	IVg			3	163.92~164.25m: 淡青色を帯び、暗緑色の変質鉱物が斑状に分布する。	19	CL'		14																		
					緑灰	Dg	Vg			2	165.14~166.46m: 傾斜約60°の割れ目が発達する。微細な割れ目を伴う。	14	CL'		15																		
					褐灰	Dg	Vg			2	167.22~168.86m: 変質作用による岩盤劣化部である。一部で割れ目沿いに細片化し、細粒化が顕著である。	3	CL'		14																		
明赤灰	Dg	Vg			3	168.18~168.86m: 脱色し灰白色化している。傾斜60°程度の割れ目が発達する。	3	CL'		3																							
灰白	Cg	IVg			2	169.12~169.43m: 変質作用を受け緑色を帯びる。岩盤は劣化し軟質である。	5	CL'		4																							
											170.51~170.66m: 割れ目及びその周辺が暗青灰色に変質している。	4	CL'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
															0	10	20	30	40												50		
180			+	花崗斑岩	褐灰	Dg	Vg	cg	2		171.63~176.24m: 傾斜45~60°の割れ目が発達する。割れ目交差部ではコアは細片化している。岩片は比較的新鮮で硬質である。	4 (4)	CL'																				
											174.21m: 傾斜50°の割れ目に暗緑灰色を呈する変質鉱物が付着する。下盤側にも斑状で暗緑灰色鉱物が形成されている。	5 (4)																					
											176.24~177.20m: 上下位に比べて割れ目は少ない。	4 (4)																					
											177.20~177.66m: 脱色し割れ目はやや不明瞭である。	5 (4)																					
											178.30m: 傾斜80°、幅4mmの灰白色の粘土を挟在する。上端側は変質が強い。	4 (4)																					
											178.97~179.05m: 変質作用により岩盤が劣化し、下位に比べて軟質である。	4 (4)																					
											179.05~180.55m: 微細な割れ目が発達する。	3 (4)																					
											180.55~180.70m: 礫混じり砂状を呈する。割れ目は消滅し岩組織不明瞭である。固結している。	3 (4)																					
											181.02~181.89m: 礫混じり砂状を呈する。硬質岩片を含むが割れ目は消滅する。一部で固結している。	4 (4)																					
											183.04~183.56m: 割れ目は少なく新鮮で硬質である。	5 (4)																					
											183.56m: 傾斜45°の割れ目に暗緑色の変質鉱物が付着する。幅10.5mmの方解石脈が伴う。	9 (4)																					
											184.46~185.42m: 微細な割れ目が発達する。下端の傾斜80°の割れ目に暗緑色変質鉱物が付着する。	12 (12)																					
											187.78~189.19m: 傾斜40~50°の割れ目が発達する。微細な割れ目を伴う。	7 (4)																					
											191.31~192.95m: 微細な割れ目が不規則に分布する。暗緑色の変質鉱物を伴う。	9 (4)																					
											190																						
192.85~192.88m: 割れ目沿いに方解石脈が不規則に分布する。	4 (4)																																
195.68m: 傾斜45°の割れ目周囲が変質で暗緑色化している。幅20mmの黄鉄鉱を伴う。	7 (4)																																
196.00~197.88m: 不規則な方解石脈、暗緑灰色の変質鉱物脈が分布する。	14 (14)																																
	8 (4)																																
	8 (4)																																
	8 (4)																																
	8 (4)																																
	8 (4)																																
	8 (4)																																
	8 (4)																																
	8 (4)																																
	8 (4)																																
	8 (4)																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 ← (%) 最大コア長 R Q D cm ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															(N 値 ~ 深度) 図																			
		200	花崗斑岩	灰黄	VG						197.88~199.46m: 劣化は軽微で、変質鉱物は少ない。一部割れ目密集部が分布する。	3 (0)			0	10	20	30	40	50				9/1	115									
				灰	IVG							199.46~199.67m: 割れ目が密集し劣化している。下端に暗緑灰色の変質鉱物が付着する。	9 (0)																					
				オリーフ灰	Cg	VG						199.67~201.03m: 劣化は軽微である。傾斜60~70°の割れ目が分布する。	10 (10)																					
				灰	IVG								12 (12)																					
				緑灰	VG								7 (0)																					
				緑灰	IVG							202.39~205.04m: 変質で劣化し脱色・白濁化している。上端に傾斜45°幅1~6mmで暗緑灰色の粘土脈が分布する。	6 (0)																					
				灰	Dg	VG							3 (0)																					
				灰	IVG							203.92~204.36m: 変質で緑泥石化している。	6 (0)																					
				灰	Dg	VG						204.03m: 傾斜45°幅6~7mmで方解石脈、緑黑色脈が混在する。	3 (0)																					
				灰	IVG							205.04~205.40m: 劣化は軽微である。微細な割れ目が分布するが、連続性に乏しい。	7 (0)																					
				オリーフ灰	VG							206.00~206.36m: 縦方向の割れ目に方解石脈と暗緑灰色の変質鉱物脈が混在する。	8 (0)																					
				オリーフ灰	IVG								11 (11)																					
				緑灰	VG							207.92~208.42m: 割れ目が多く細片化、細粒化している。	10 (10)																					
				緑灰	IVG							209.42~210.83m: わずかに割色している。不規則、不連続の微細な割れ目が分布するが、大きい劣化はない。	10 (10)																					
		210		灰	Dg	VG						210.64~210.65m: 上端傾斜57°、下端傾斜52°幅8~10mmで灰色の砂混じりシルトと石英脈が挟在する。	8 (0)																					
			オリーフ灰	IVG							210.93~211.03m: 幅4cm程度で変質を受け、暗緑灰色を呈す。	11 (11)																						
			灰	VG							212.14~215.73m: 傾斜25~70°の割れ目が発達する。一部で割れ目沿いに細片化している。	8 (0)																						
			オリーフ灰	IVG								10 (10)																						
			緑灰	VG								10 (10)																						
			緑灰	IVG								13 (13)																						
			灰	Dg	VG						216.56~217.00m: 微細な割れ目が発達する。上下端に幅0.5~4mmで暗緑灰色の変質脈が挟在する。	4 (0)																						
			灰	IVG								6 (0)																						
			灰	Dg	VG							3 (0)																						
			灰	IVG							218.24m: 幅1.5mm、傾斜45°の暗緑灰色の変質脈を挟む。	5 (0)																						
			灰褐	IVG								15 (15)																						
			オリーフ灰	VG								9 (0)																						
			褐灰	IVG							219.27~219.63m: 縦方向の割れ目と低角度の微細な割れ目が斜交する。一部で細片化、細粒化している。	9 (0)																						
			オリーフ灰	VG								4 (0)																						
			暗緑灰	IVG							221.11~221.19m: 網目状に砂が分布する。	4 (0)																						
			褐灰	VG							221.19~222.71m: 上部は傾斜30~45°、下部は傾斜60~75°の割れ目と微細な割れ目が発達する。割れ目沿いに細片~細粒化している。部分的に脱色し軟質である。	8 (0)																						
			褐灰	IVG								13 (0)																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)									
													(N)	(値)																				
		230	花崗斑岩	褐 灰			IV _E III _E V _E CG III _E IV _E V _E IV _E III _E CG IV _E V _E IV _E V _E IV _E V _E IV _E CG IV _E V _E IV _E CG	β 2	223.40~224.85m:ハンマー打診で金属音を発する。																									
																228.60~229.05m: 傾斜65°の割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。 228.86m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出している。																		
																231.50~231.67m: 上端傾斜50°, 下端傾斜30°の割れ目に沿って径1~2cmに細片化している。																		
																232.45m, 232.50m, 232.70m: 傾斜5~10°の低角度割れ目が65°割れ目に切られる。																		
																233.86~234.23m: 微細な割れ目が1~3cm間隔で分布。細片化している。																		
																●234.23~234.38m: 破砕帯(D-37)破砕帯は3.6cmである。 234.23~234.37m: 角礫状を呈する。褐色の割れ目の密集部からなる。径1cm前後の角礫が主体となる。																		
																234.37~234.38m: 暗緑色の角礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.0cmである。傾斜は76°である。軟質粘土に径2~4mmの花崗斑岩細礫や石英粒が混じる。																		
																236.90~239.00m: 傾斜40~85°の割れ目と微細な割れ目が1~3cm間隔で発達する。																		
																239.00~240.00m: 割れ目はやや減少する。傾斜65~70°と5~15°の割れ目及び微細な割れ目が1~3cm間隔で分布する。																		
		162.43240.00																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N)	(m)														
				暗オリーブ灰						20.20~20.42m: 貝殻片が散在する。								7/23	760		3.0		0.1	泥水15	15				
		12.65	22.45	礫混じりシルト質砂						22.45~24.09m: 礫混じり砂質シルトである。 細粒砂が混入するシルトが主で、中粒砂や径2~5mmの石英角礫が全体に混入する。微細な貝殻片が多い。																			
		13.81	24.09	礫混じり砂質シルト						24.09~25.51m: 礫混じりシルト質砂である。 シルト質細~中粒砂が主で、径2~5mmの石英がわずかに混入する。一部で貝殻片が集中して混入する。 24.09~24.37m: 上方で細粒化した細粒砂からなる。																			
		14.82	25.51	礫混じり下質砂						25.51~27.25m: 礫混じり砂質シルトである。 シルトを主とし全体に細~中粒砂、径2~5mmの石英、貝殻片が混入し植物片が散在する。25.81m以下では砂質シルトを呈する。																			
		16.05	27.25	礫混じり砂質シルト						27.25~27.94m: シルト質砂である。 細粒砂が主で、シルト及び中粒砂が全体に混入する。貝殻を多量に含む。																			
		16.54	27.94	シルト質砂						27.94~29.29m: 礫混じりシルト質砂である。 植物片が点在する。下部は礫・シルト分が少なくなる。																			
		17.49	29.29	礫混じり下質砂						28.42m付近: 貝殻片が混入する。																			
		18.17	30.25	礫質砂						29.29~30.25m: 礫質砂である。 中~粗粒砂が主で、径2~5mm程度の石英を30%程度含む。																			
		18.73	31.04	有機質砂	黒褐色					30.25~31.04m: 有機質砂である。 細粒砂~中粒砂が主で径2~5mmの石英が混入する。下部は径50mmの礫が分布する。																			
		19.41	32.00	礫混じり下質砂						31.08m: 有機物が濃集している。 31.04~32.00m: 礫混じり砂である。 細~中粒砂が主で径2~4mmの細礫が混じる。下部は礫質で径50mmの垂円礫を含む。																			
		20.79	33.95	砂	灰白					31.08m付近: 有機物が混じる。 32.00~33.95m: 砂である。 細~中粒砂が主で部分的にシルト、粗粒砂が混じる。 32.05~32.27m: 有機物が混入する。																			
		21.94	35.58	礫質砂	灰					33.95~35.58m: 礫質砂である。 細~粗粒砂が主で、径2~10mmの垂角礫を20~30%含む。 33.95~34.16m: 礫が多い。 34.16~34.35m: 細粒砂が主体となる。																			
				明褐色						35.58~42.82m: 砂礫である。 35.58~37.45m: 礫は径6~100mm(最大200mm)の垂角礫が主で基質は有機物・シルト混じりの不均質な砂からなる。礫率は50~70%である。																			
				褐色																									
				にぶい黄橙																									
				オリーブ						37.45~39.66m: 径2~30mm(最大50mm)の垂角~垂円礫が主となる。基質は細~粗粒砂からなり、全体的に酸化汚染を受ける。																			
				砂礫																									
				灰オリーブ						39.66~42.82m: 径2~30mm(最大180mm)の垂角~垂円礫が主となる。基質は細~粗粒砂からなり不均質である。全体的に酸化鉄汚染を受ける。礫種は花崗斑岩が主となる。 径100mmを超える礫は硬質が多い。 40.55~40.70m: 粗粒砂~礫混じり粗粒砂である。黒色の炭化物が混入する。 41.42~41.52m: 有機物が混入する。																			
		27.06	42.82	礫質砂	灰白					42.82~46.84m: 礫質砂である。 細~粗粒砂からなる不均質な砂で、径5~40mm(最大150mm)の垂角礫が混じる。礫率は20~30%、最大約5%である。細礫は石英粒子が主体となる。 44.08~45.14m: 礫率%で上下より礫量が減少した中粒砂が主の礫混じり砂を呈する。 46.72~46.84m: 均質な細粒砂からなる。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D ← [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															(N 値 ~ 深度)	図																				
80			花崗斑岩	明褐灰	IIIg	IVg	IIIg	ε	3	γ	70.00~70.45m: 傾斜45~60°の割れ目に沿って熱水変質が認められる。 70.45~75.38m: 割れ目間隔は1~5cmで、微細な割れ目が分布する。	9 [9] (100)																								
							Vg								10 [10] (100)									85												
							Dg	IVg							10 [10] (100)								8/3													
							Vg								13 [13] (100)																					
							Dg	IVg							8 [8] (100)																					
							Vg								8 [8] (100)																					
						CG	IVg						11 [11] (100)																							
						Dg	IVg						15 [15] (100)																							
						Vg							15 [15] (100)																							
						CG	IVg						16 [16] (100)	CL'																						
						Dg	IVg						14 [14] (100)																							
						CG	IVg						9 [9] (100)																							
					Dg	IVg						9 [9] (100)																								
					CG	IVg						11 [11] (100)																								
					Dg	IVg						10 [10] (100)																								
					CG	IVg						9 [9] (100)																								
					Dg	IVg						24 [24] (149)																								
					CG	IVg						15 [15] (100)																								
					Dg	IVg						16 [16] (100)																								
					CG	IVg						22 [22] (100)																								
					Dg	IVg						15 [15] (100)																								
					CG	IVg						1 [1] (100)																								
					Dg	IIIg						1 [1] (100)																								
					CG	IVg						1 [1] (100)																								
					Dg	IVg						5 [5] (100)																								
					CG	IVg						9 [9] (100)																								
					Dg	IVg						7 [7] (100)																								
					CG	IVg						9 [9] (100)																								
					Dg	IVg						17 [17] (100)																								
					CG	IVg						9 [9] (100)																								
					Dg	IVg						9 [9] (100)																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
														N	10	20	30	40												50			
100			花崗斑岩	灰黄	Dg Vg				γ	96.20~96.70m: 傾斜10°前後の低角度割れ目が1~3cm間隔で分布する。微細な割れ目が多く分布し岩質もやや軟質である。	CL'									8/7	75		40.0										
				灰白	Dg				δ		96.85~100.00m: 硬質である。																						
				明褐灰	IIIg					γ	99.70m: 傾斜70°割れ目に交差する割れ目が発達し、コアは岩片状を呈する。																						
				にぶい黄橙	Cg					2	100.00~100.26m: 上下位に比べ軟質である。割れ目頻度も多い。																						
				灰白	Dg						100.86~101.03m: 傾斜70°の割れ目沿いの変質で幅7cm程度、暗青灰色化している。灰白色の粘土を伴う。	CM'																					
				にぶい黄橙	Cg						102.79~103.46m: 傾斜45°の割れ目沿いの変質で暗青灰色化している。割れ目幅は3~4mmで銀白色の鉱物が晶出している。																						
				灰白	Dg						105.17m: 傾斜70°の割れ目に層状にマンガンが幅1cmで分布する。																						
				灰黄	IIIg						107.00~108.42m: 割れ目間隔は1~5cmが主で部分的に密集する。	CL'																					
				にぶい黄橙	Cg						108.58~110.94m: 割れ目に沿って風化が進む。																						
				灰白	Dg					γ	109.11m: 傾斜65°程度、幅5mmの黄白色の砂混じり粘土状を呈する。																						
				にぶい黄橙	Cg						109.74~109.82m: 傾斜75°の割れ目周縁に、変質で幅4cm程度の暗青灰色鉱物が晶出する。																						
				明褐灰	IIIg						110.94~112.70m: 硬質である。ハンマーの打撃で金属音を発する。	CM'																					
				にぶい黄橙	Cg						112.70~113.60m: 割れ目が多い。割れ目周辺にマンガンが濃集する。																						
				明褐灰	IIIg						113.60~113.80m: 割れ目が密集し風化が進む。																						
				にぶい黄橙	Cg						傾斜60°の割れ目に淡黄灰色の粘土が挟在する。																						
			明褐灰	Eg Vg					ε 4	●114.71~115.13m: 破砕帯(D-38)破砕幅は21.0cmである。粘土混じり砂礫状を呈し、明褐色の固結した礫状部からなる。上端、下端境界の傾斜はともに60°である。	CL'																						
			にぶい黄橙	Dg Vg					δ 3	115.13~115.46m: 角礫状を呈する。岩組織は残存し下端境界の傾斜は60°でシャープである。																							
			にぶい黄橙	Cg						115.61m, 115.73m: 割れ目沿いに細片化している。傾斜60°, 幅2~5mmで連続する。																							
			にぶい黄橙	IVg						117.27~117.29m: 変質で暗青灰色化している。傾斜は60°程度、幅20cmである。																							
			にぶい黄橙	Bg						118.41~118.57m: 変質で暗青灰色化している。傾斜は60°程度、幅120mmである。中央付近に傾斜60°, 幅12mmの灰白色砂混じり粘土を挟在する。	CM'																						

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア チップ 径 (mm)	給 圧 (kN・ rpm)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
												標準貫入 (N値~深度) 図		試験															
	130	花崗斑岩	にぶい黄橙	IV _g	cg	CL'		120.88~122.28m: 新鮮・硬質である。	18 (24)	CL'		8/9		65															
			灰黄	Bg	III _g	bg	CH'		122.58~123.19m: 割れ目が発達し、割れ目沿いに細片化している。	18 (149)	CH'																		
			にぶい黄橙	IV _g					123.19~124.48m: 傾斜60°の割れ目が多い。	27 (27)																			
			灰黄褐	IV _g					124.48~125.13m: 一部で角礫状~細粒化している。	22 (22)																			
			にぶい黄橙	Cg					125.93~125.96m: 割れ目沿い幅2cmで細片化~細粒化している。	19 (13)																			
			灰黄褐	V _g					127.71~129.51m: 割れ目間隔は概ね5~10cmと広い。	8 (4)																			
			灰白	Bg	IV _g				129.51~129.90m: 割れ目が密集している。傾斜70°の割れ目が主となる。	18 (48)																			
			にぶい橙	III _g				γ	130.50~130.64m: 低角度の割れ目が密集し、割れ目沿いに細片化~細粒化している。	29 (20)																			
			灰黄褐	V _g					131.14~132.03m: 傾斜70°以上の高角度割れ目と5~10°の低角度割れ目が斜交し、割れ目沿いに細片化している。	12 (12)																			
			にぶい橙	III _g					133.12~133.17m: 割れ目沿いの岩盤劣化部である。傾斜は70°、幅20mmである。割れ目沿いに細片化し、岩片は割れ目と同方向に配列している。	11 (11)																			
			灰黄褐	V _g					134.07~134.45m: 割れ目が密集し、割れ目沿いに細片化している。	6 (6)																			
			にぶい橙	IV _g					136.50~136.68m: 割れ目が密集する。	18 (4)																			
			灰黄褐	V _g					137.60~137.73m: 割れ目が密集し、幅1mm程度の酸化物が挟在する。	14 (14)																			
			明褐色	III _g		β			139.00~140.97m: 割れ目間隔は概ね5~10cm程度と広い。	38 (56)																			
			灰黄褐	IV _g				γ	140.00~140.18m: 未風化で新鮮である。	25 (42)																			
			にぶい赤橙	III _g				β	141.46~143.52m: 割れ目が密集し細片~細粒化している。	15 (15)																			
			褐灰	IV _g					●143.52~143.76m: 破砕帯(D-7)破砕幅は13.8cmである。褐灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は60°である。	2 (4)																			
				Cg					143.76~144.32m: 割れ目が多く割れ目沿いに細片~細粒化している。岩自体は硬質である。	15 (15)																			
			V _g				γ		4 (4)																				
			Cg						7 (7)																				
			V _g						4 (4)																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N 値 ~ 深度)	() 図																
		150	花崗斑岩	灰黄褐	褐灰	IV _E				145.20~145.22m: 上下端の傾斜が45°、幅5~20mmの粘土混じり砂状を呈する。	8 7 (8)	CL'		0			8/19	90			20.0	100									
					明褐灰	V _E					147.12~148.39m: 新鮮で硬質である。		9 8 (9)																		
					灰黄褐	C _E	V _E				148.39~148.80m: 割れ目は褐色化し、微細な割れ目に灰白色の粘土が挟在する。		15 14 (15)																		
					にぶい橙	D _E	V _E				149.75~149.79m: 上端傾斜が45°、下端傾斜が65°、幅10~30mmの割れ目密集部で角礫状を呈する。		16 15 (16)																		
					明褐灰	IV _E					151.13~152.76m: 割れ目沿いに硬質を受けコアは脆い、一部で細片化している。		12 11 (12)														0.1		3		
					にぶい橙	D _E	V _E				152.76~153.13m: 微細な割れ目が網目状に発達する。割れ目沿いに硬質が進む。		12 11 (12)																		
					灰褐	C _E	V _E				152.95~152.96m: 傾斜20°、幅10~15mmの黒褐色のシルト質粘土を挟在する。		9 8 (9)																		
						D _E	V _E				154.25~155.49m: 硬質で微細な割れ目が少ない。		5 4 (5)																		
						C _E	IV _E				156.49m: 傾斜60°の割れ目に幅2~5mmのマンガンが挟在する。		10 9 (10)																		
						D _E	V _E				157.00~158.16m: 割れ目が密集し礫状化している。		7 6 (7)																		
						IV _E					159.55~160.05m: 傾斜45~50°の割れ目が3~5cm間隔で平行に分布する。割れ目沿いに幅1mm以下のマンガンが付着する。		10 9 (10)																		
						IV _E					160.05~160.40m: 傾斜60°と10~20°の割れ目が密集し細片化している。		11 10 (11)																		
						C _E	V _E				161.98~162.25m: 傾斜10~30°の割れ目が1~3cm間隔で平行に分布し、岩片状を呈する。		7 6 (7)														0.1		0		
						IV _E					164.44~164.60m: 傾斜60°と10~20°の割れ目が斜交し、岩片化している。		7 6 (7)																		
						IV _E					166.37~166.46m: 粘土混じり角礫状を呈する。上端境界は55°で、岩相線は不明瞭である。		6 5 (6)																		
				浅黄	C _E	IV _E			166.46m: 傾斜が50°、幅2mmの灰白色の粘土を挟む。	5 4 (5)																					
				灰褐	D _E	V _E			166.46~166.78m: 上下端に幅1~2mmのマンガン濃集帯が分布する。微細な割れ目にマンガンが細脈を呈する。	7 6 (7)													40.0	150	0.1	5	5				
				灰黄褐	D _E	V _E			169.09~170.12m: 傾斜30~50°の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化している。	5 4 (5)																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 cm R Q D └ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																
															(N 値 ~ 深度) 図	値																																																																																																																																																																											
180			花崗斑岩	花崗斑岩	灰黄褐	IVg	cg	γ	2		171.00~171.07m: 割れ目密集部である。 171.22~173.00m: 傾斜0~60°の割れ目が不規則に分布し、角礫状化している。 173.37~174.08m: 傾斜20°前後の低角度割れ目が主となる。割れ目沿いに細片化しマンガンが付着する。下端付近は変質で暗青灰色化している。 174.21~174.25m: 微細な割れ目が密集する。 176.01~176.68m: 割れ目はやや少ない。 ●176.68~177.31m: 破砕帯 (D-6) 破砕幅は10.0cmである。 176.68~176.71m: 黒褐色の角礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は2.4cmである。上端境界の傾斜は60°である。 176.71~177.31m: 砂混じり礫状を呈し、灰白色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は35°である。 177.31~177.52m: 角礫状を呈する。固結した砂礫様である。一部で粘土分に富む。 178.27~179.77m: 割れ目間隔は2~8cmで硬質である。 180.37~180.64m: 変質で長石類が緑色化している。 182.64~182.72m: 傾斜60°, 幅50mmのベグマタイト脈である。 182.98~183.86m: 傾斜10~20°と50~90°の微細な割れ目が概ね12cm間隔で分布する。 184.03~184.56m: 傾斜40~60°の割れ目が発達する。同傾斜の微細な割れ目が概ね1~3cm間隔で分布する。 185.25~186.12m: 割れ目は少なく割れ目沿いに弱く風化するが硬質である。 186.55~186.63m: 角礫岩様で軟質である。 187.60~188.09m: 割れ目が多い。割れ目沿いに細片化している。 188.09~188.92m: ベグマタイトである。 斑晶は5~10mmの石英、長石とカリ長石を主とする。 188.92~240.00m: 花崗斑岩である。境界の傾斜は50°である。割れ目でベグマタイト側は細片化するが、花崗斑岩は硬質で割れ目が少ない。 189.52~192.59m: 割れ目間隔が概ね10~30cm以上と良好な岩盤も含む。 192.87~193.10m: 変質で淡黄白色の細粒物質を伴い軟質である。 193.56~194.26m: 割れ目間隔は概ね10cm以上で風化・変質は軽微である。 194.26m: 傾斜55°, 幅5mmの軟質な暗緑色の変質粘土脈である。		CL'																																																																																																																																																																														
																																			8/26	80	85	86 / 泥水	40.0	0.1	泥水5	5																																																																																																																																																	
																																			190			花崗斑岩	花崗斑岩	赤灰	IVg	cg	γ	2			CL'																																																																																																																																												
																																																																8/21	85	100	75 / 泥水	150	0.2	泥水5	5																																																																																																																				
																																																																			ベグマタイト	ベグマタイト	赤灰	IVg	cg	γ	2			CL'																																																																																																															
																																																																																													8/28	100	70	75 / 泥水	40.0	0.2	泥水5	5																																																																																							
																																																																																																花崗斑岩	花崗斑岩	灰黄褐	IVg	cg	γ	2			CL'																																																																																		
																																																																																																																										9/7	80	100	75 / 泥水	160	0.2	泥水5	5																																																										
																																																																																																																													花崗斑岩	花崗斑岩	赤灰	IVg	cg	γ	2			CL'																																																					
																																																																																																																																																							9/15	85	100	75 / 泥水	40.0	0.2	泥水5	5																													
																																																																																																																																																										花崗斑岩	花崗斑岩	赤灰	IVg	cg	γ	2			CL'																								
																																																																																																																																																																																				9/18	85	100	75 / 泥水	160	0.2	泥水5	5

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟 状	コア 形状	割れ目 の状態	風化 化質	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D └┘ [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		試験 ()	原位置試験 (孔内水平距離)	室内 試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁保護	コアチューブ /ピット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
															N	() 値															
		200									195.56~197.16m: コアは新鮮で硬質である。微細な割れ目はほぼ密着している。		CL'																		
											196.84m: 幅20mmの変質粘土脈である。黄鉄鉱を伴う。		CM'							9/18	105										
											197.16~198.54m: 全体に赤色を帯びる。																				
											198.67~200.10m: 概ね新鮮であるが、割れ目沿いに細片化している。		CL'																		
											200.51~200.55m: 傾斜60°の淡緑色の変質粘土脈である。脱色し軟質である。																				
											200.10~225.94m: 割れ目間隔は10cm以上を多く含む良好な岩盤が広く分布する。																				
											202.97m: 傾斜55°の割れ目に、幅1mmの暗緑色の砂質シルト状の変質鉱物が挟在し、黄鉄鉱を伴う。		CM'																		
											203.78~204.12m: 割れ目が多い。																				
											205.40~206.33m: 割れ目が多く割れ目沿いに細片化、細粒化している。																				
											207.46~208.03m: 傾斜50~60°の割れ目がみられ、割れ目沿いに細片化している。																				
											208.15~208.21m: 割れ目が密集し、割れ目沿いに細片化~細粒化している。暗緑色の鉱物脈が不規則に分布し脱色している。軟質である。		CL'																		
											210.07~211.82m: 軽微な変質で緑灰色を帯びるが、ほぼ新鮮で硬質である。		CM'																		
											211.82~213.19m: 傾斜40~50°の割れ目が発達するが硬質である。																				
											213.41~213.59m: 全体に赤紫色を帯びるが、硬質部が主となる。		CM'																		
											215.65~216.06m: 割れ目が多くなり微細な割れ目も分布する。																				
											217.33~217.57m: 割れ目が密集する。上端の傾斜50°割れ目には暗緑色の変質鉱物が付着する。		CL'																		
											218.44~218.54m: 不規則な割れ目が分布する。割れ目間隔は1~2cm程度である。上端に暗緑色の変質脈を伴う。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		試験	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
														(N)	値																								
230	166.49240.00		花崗斑岩	褐灰	Cg	IVg	cg	β	2	221.18~221.80m: 割れ目間隔は10~20cmと硬質で割れ目が少ない良好岩盤である。	22	CL'								9/22	50																		
										221.80~222.42m: 傾斜75°、幅1~1.5mmの石英脈である。上下端に方解石を伴う。	21	CM'																											
										222.42~222.63m: 粘土などの挟入物がない硬質で割れ目が少ない良好岩盤である。	22	CL'																											
										222.63~224.09m: 粘土などの挟入物がない硬質で割れ目が少ない良好岩盤である。	17	CH'																	9/23	70									
										224.09~225.58m: 高角度割れ目が分布し、割れ目密集部を形成する。	23	CL'																											
										225.58~225.94m: 傾斜30~40°の割れ目が発達する。長石類の一部は変質で緑泥石化するが、岩芯は概ね新鮮である。	24	CM'																											
										225.94~228.33m: 傾斜30~40°の割れ目が発達する。長石類の一部は変質で緑泥石化するが、岩芯は概ね新鮮である。	23	CL'																											
										228.33~228.56m: 低角度の割れ目が発達する。微細な割れ目も伴い割れ目沿いに細片化~細粒化している。	12	CL'																											
										228.56~230.00m: 低角度の割れ目が発達する。微細な割れ目も伴い割れ目沿いに細片化~細粒化している。	12	CL'																											
										230.00~230.96m: 一部で割れ目間隔10~15cmと割れ目が少ない区間を含む。	15	CM'																											
										230.96~231.32m: 傾斜30~40°の割れ目が発達する。長石類の一部は変質で緑泥石化するが、岩芯は概ね新鮮である。	10	CL'																											
										231.32~232.34m: 割れ目沿いに細片化している。カリ長石を除く長石類は緑泥石化している。	25	CM'																											
										232.34~235.89m: 傾斜30~40°の割れ目が発達する。長石類の一部は変質で緑泥石化するが、岩芯は概ね新鮮である。	23	CM'																											
										235.89~236.35m: 割れ目間隔は1~2cm以下と割れ目が多く、変質で緑色を帯びるが硬質である。	20	CL'																											
										236.35~236.80m: 傾斜30~40°の割れ目が発達する。長石類の一部は変質で緑泥石化するが、岩芯は概ね新鮮である。	20	CL'																											
										236.80~238.16m: 傾斜30~40°の割れ目が発達する。長石類の一部は変質で緑泥石化するが、岩芯は概ね新鮮である。	10	CL'																											
										238.16~238.96m: 割れ目間隔は10cm程度である。	15	CM'																											
										238.96~240.00m: 傾斜30~40°の割れ目が発達する。長石類の一部は変質で緑泥石化するが、岩芯は概ね新鮮である。	16	CL'																											

ボーリング柱状図

調査名

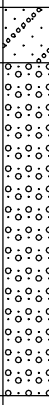




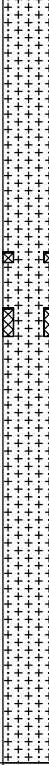











ボーリングNo.

1

事業・工事名

ボーリング名	B8-23		調査位置		北緯	
発注機関					東経	
調査業者名	主任技師			調査期間	コアア	ボーリング者
現代理人	コアア		ハンマー		ポンプ	
エンジン	ハンマー		ポンプ			
孔口標高	7.29 m	角	180° 上	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配
総掘削長	38.00 m	度	下 0°	向	25.0°	鉛直 0° 水平 0°

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
																				(N)	値																					
		5.59	1.88	埋土	黒明黄褐						0.00~1.88m: 埋土である。 0.00~0.40m: 砕石からなる。 0.40~1.88m: 砂からなる。													9/12	150 / ケーシング	試験/試験	0.0	0														
		3.26	4.45	盛土	黄褐						1.88~4.45m: 盛土である。 1.88~4.23m: 雑混じり砂からなる。 中粒砂が主で、径2~5mmの石英細礫を多数程度含む。 3.13~3.50m: シルトに富み、径1~2mmの有機物片を若干含む。 3.27~3.40m: 細礫が密集する。 3.88~4.23m: 中粒砂からなり、均質である。 4.23~4.45m: 砂礫からなる。径5~10mmの花崗斑岩歪円~垂角礫と径2~5mmの細礫が密集する。																	9/13	115 / ケーシング													
		1.87	5.98	灰	灰黒褐						4.45~23.09m: 砂礫土主体の第四系である。 4.45~5.98m: 雑混じり砂である。 中粒砂を主とする。径2~5mmの石英が混じり、礫率は10~20%である。 下層部は有礫質である。 5.98~10.11m: 砂礫である。 礫は径2~5mmの石英と径10~30mm(最大370mm)の花崗斑岩歪円~垂角礫で礫率は30%程度である。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。																															
		-1.87	10.11	砂礫	褐灰						7.93~10.11m: 径10~200mmの花崗斑岩歪角礫が主である。ほとんどが軟質である。基質は細~中粒砂からなる。 9.71m: 約10mmの有機物片が混入する。																															
		-2.49	10.79	砂	灰黄褐						10.11~10.79m: 砂混じり粘土である。 下位ほど砂分に富む。 10.79~11.81m: 砂である。 シルトの混じる中粒砂からなる。 11.48m以浅: 上方で細粒化している。 11.48m以深: 粘土混じり中粒砂を呈する。																															
		-3.41	11.81	砂	にぶい黄橙						11.81~11.93m: 粘土である。 11.93~12.50m: 砂である。 上方は粗粒砂、下方は中粒砂からなる。																															
		-3.52	11.93	砂	黄褐						12.50~14.98m: 砂礫である。 径2~5mmの石英と径10~50mm(最大850mm)の花崗斑岩歪円~垂角礫が主体となる。一部の礫はクサリ~半クサリ礫化する。基質は硬く締まった粗粒砂からなる。																															
		-4.04	12.50	砂	にぶい黄橙						14.98~15.43m: シルト質砂である。 シルトの混じる細~中粒砂が主体となる。																															
		-6.29	14.98	砂礫	灰黄						15.43~16.36m: 礫である。 上部にクサリ礫主体の砂礫層を伴う。																															
		-6.69	15.43	砂	灰白						16.36~17.97m: 雑混じり砂である。 シルトの混じる不均質な砂が主で、径2~5mmの石英細礫及びクサリ礫化した花崗斑岩礫を含む。上層付近は中粒砂、17.40m以深は細粒砂で、直上の雑混じり砂と傾斜5°で接する。																															
		-7.54	16.36	砂	浅黄																																					

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 変 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	試験				原 位 置 試 験 (孔内水圧調整)	室 内 試 験	掘 進 日 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル ノ ン ン	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)
													(N 値)	標準貫入													
20	-8.91	17.87		砂礫	浅黄	軟	なし	なし	17.87~23.09m: 砂礫である。径10~100mmの花崗斑岩垂直角礫で、殆どがクサリ礫化する。基質は石英・長石の細礫を含むシルト混じり砂からなる。花崗斑岩礫・基質は同質で、境界が不明瞭な部分がある。21.78m以深：礫は小型化し、径10~50mmで垂円礫も分布する。19.20~21.78m: 礫混じり粗粒砂からなる。	0	D	9/15		200	2.5	泥水	1										
									85																		
20	-13.64	23.09		砂礫	灰黄	軟	なし	なし	22.22m以深：風化で褐色化が進む。	0	D	9/16	90	2.5	泥水	0											
									85																		
30	-14.37	23.90		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	23.09~23.90m: スライムである。	0	D	9/16	55	2.5	泥水	0											
									85																		
30	-15.84	25.52		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	23.90~38.00m: 花崗斑岩である。斑晶は径2~6mmの石英、2~10mmの白濁した長石と径1mm以下で点在する黒雲母からなる。23.90~25.09m: 岩組織・割れ目は残留するが軟化が著しい。	0	D	9/13	80	2.5	泥水	0											
									65																		
30	-15.91	25.60		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	25.52~25.60m: スライムである。	0	D	9/13	80	2.5	泥水	0											
									65																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	26.10m以深：風化が弱くなる。	0	D	9/18	115	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	27.40m: 傾斜55~60°, 幅4~5mmの石英脈である。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	29.99~30.16m: 破砕帯(D-36)破砕幅は13.0cmである。29.99~30.01m: 暗灰色の角礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.5cmである。上端境界の傾斜は85°, 下端境界の傾斜は35°である。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	30.01~30.16m: 灰黄色の角礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.5cmである。上端境界の傾斜は85°, 下端境界の傾斜は18°である。灰色~白色の粘土が網状に分布する。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	30.67m: 傾斜35°, 幅5mmの赤褐色の粘土脈である。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	30.87~31.32m: 破砕部破砕幅は25.3cmである。30.87~30.89m: 褐色の粘土混じり角礫状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は2.5cmである。上端境界の傾斜は31°, 下端境界の傾斜は90°である。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	30.89~31.04m: 角礫質粘土状を呈し、褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は80°である。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	31.04~31.32m: 褐色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	32.22m: 傾斜60°, 幅15mmの石英脈である。幅6~10mmの黄褐色の粘土を作つ。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	33.06m以深：一部で風化で褐色化し軟化が進行する。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	35.30m: 傾斜60°, 幅10~15mmの石英脈である。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		
30	-27.15	38.00		砂礫	明黄褐	軟	なし	なし	36.04m: 傾斜50°, 幅6~10mmの石英脈である。	0	D	9/18	80	2.5	泥水	0											
									80																		

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.

1

事業・工事名

ボーリング名	B8-27		調査位置						北緯			
発注機関						調査期間				東経		
調査業者名				主任技師			現代理人	コ監定者	ボーリング者			
孔口標高	5.36 m	角	180° 上	90°	方	北 0° 西 270°	東 90° 南 180°	143.0°	地盤勾配	鉛直	0°	
総掘削長	99.00 m	度	下 0°	45.0°	向	90°	30.0°	使用機種	試錐機	ハンマー 落下用具		
								エンジン	ポンプ			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
																				(N値~深度) 図	(N) 値																						
											48.00mまでノンコア																																
																							9/20	240		0.0	0																
																								170																			
																								360																			
																							9/21			114 / ケーシング	ダブルコア / ナイーロ / タイヤ / セメント / ビット	16.0	80	0.4													
																								125																			
																								135				40.0	120	0.1													
																								85																			
																							9/22	75				10.0	80	0.2													

標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(測定月日) N 値	(標準貫入) 試験					原位置試験(孔内水平動)	室内試験	掘進日	掘進速度(cm/時)	孔徑(mm) / 孔壁保護	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)												
												(N 値 ~ 深度) 図																										
64	99.00	+	花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg Vg cg	γ	2	<p>●65.59~65.80m: 破砕部 破砕幅は10.5cmである。 65.59~65.61m: 極暗赤褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.2cmである。傾斜は60°である。 65.61~65.80m: 角礫混じりシルトを呈し、にぶい黄橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は70°である。径10mm前後の花崗斑岩クサリ礫と、幅1mmの白色の軟質粘土を伴う。下端に幅1mmの黄灰色の粘土を伴う。 66.85~67.52m: 岩組織は残留するが著しく軟化した。 67.52~69.03m: 傾斜10~30°、60~85°の割れ目と微細な割れ目が多く分布する。一部で径約5mmに細片化している。 69.62~70.20m: 上端傾斜が21°、下端傾斜が32°、径10~20mmに角礫化し、著しくとも固結している。 70.20~72.03m: 割れ目間隔約3cm前後と割れ目が多い。 73.10~76.21m: 傾斜30~50°と55~80°割れ目が交差し、概ね3cm前後の間隔で分布する。 73.86~74.62m: 傾斜35°の割れ目に白色~褐色の粘土が存在する。 75.63m: 割れ目に、傾斜50°、幅5~10mmの白色の粘土を挟み、軟質である。 76.21~77.84m: 割れ目間隔が3~10cmでやや割れ目は少ないが、割れ目沿いに細片~細粒化している。全体に変質している。 77.84~79.26m: 傾斜20~40°と、これに直交または斜交する50~70°の割れ目が、5cm間隔で発達する。 79.26~80.33m: 幅1~8mmの粘土脈が発達する。</p>	4 5 6 7 8 9 10	CL'	0	10	20	30	40	50																						
				灰赤	Cg Iv	γ	2			11 12 13 14 15 16 17 18 19 20	D'																											
				にぶい黄橙	Dg Vg	γ			21 22	D'																												
				にぶい橙	Dg Vg	δ	3		23 24 25 26 27 28 29 30 31 32	CL'																												
				灰赤	Cg Iv	γ	2		33 34 35 36 37 38 39 40 41	D'																												
				明赤灰	Dg Vg	δ	4	<p>●81.68~83.66m: 破砕部 破砕幅は143.0cmである。 81.68~81.69m: 淡緑灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.5cmである。傾斜は40°である。 81.69~81.89m: 角礫混じり粘土状を呈し、にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端、下端境界の傾斜はともにも40°である。 81.89~81.90m: 灰白色の粘土状を呈し、固結した粘土状部からなる。傾斜は40°である。 81.90~83.66m: にぶい橙色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は10°である。 83.66~84.37m: 割れ目沿いに細粒化している。 84.37~84.49m: 上端傾斜20°、下端不明瞭で角礫混じり砂状を呈する。 84.81m: 傾斜50°の割れ目沿いに幅20cmで黄灰色化している。周縁は風化している。 86.82~87.20m: 変質でやや軟質化している。</p>	42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53	D'																												
				明赤灰	Dg Vg	γ	2			54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64	CL'																											
				淡黄にぶい黄橙	Eg Vg dg	δ	3		65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81	D'																												
				明赤灰	Dg Vg	γ	2		82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120	CL'																												
				浅黄明赤灰	Dg Vg	γ	2		121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200	D'																												
				灰褐	Cg Iv	γ	2		201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300	CL'																												
				灰白	Vg	γ	2		301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400	D'																												
				灰褐	Dg Vg dg	γ	2		401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500	D'																												

ボーリング柱状図

調査名 _____

ボーリングNo.																1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名 _____

ボーリング名	B8-30			調査位置				北緯					
発注機関							調査期間			東経			
調査業者名	主任技師						現代理人			ボーリング者			
孔口標高	7.39 m	角 上	180°		方 向			地盤勾配	水平	0°	使用機種	試錐機	ハンマー 落下用具
総掘削長	28.00 m	度 下	0°		鉛直	90°	0°	エンジン	ポンプ				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N値)	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN/MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
												最大	長				cm	R	Q	D	度												L	[%]	(N値~深度) 図	試験/試験	試験
											15.00mまでノンコア																										
	-6.20	15.00		礫	灰						15.00~18.60m: 礫・砂主体の第四系である。	+										11/28			試験/試験			0.0	0				試験				
	-6.48	15.30		礫	灰						15.00~15.30m: 礫混じりシルト質砂である。	+										11/29					ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	101.6	90				その他(不明含む)				
	-7.82	16.78		巨礫	灰						15.30~16.78m: 巨礫である。花崗岩の巨礫である。	+										11/30										0.1	泥水	3			
				巨礫	灰						16.78~18.60m: 玉石混じり砂礫である。礫は径10~40mmの花崗岩岩片、径100~400mmの玉石で石英、長石の細礫も分布する。礫、玉石とも半クサリ礫が主となる。基質は細~粗粒砂で不均質である。全体に酸化汚染を受ける。	+												12/4	120												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														N	値														
	-9.47	18.60		玉石混じり砂礫	にぶい黄褐									0	100			12/4	120	101.6 / ケーシング									
20				明黄褐	Dg			γ			18.60~28.00m: 花崗斑岩である。斑晶は径1~7mmの石英・長石と径1~3mmの黒雲母。石基は優白質が主となる。				5	100			12/5	110									
				にぶい黄橙	Cg						18.60~18.95m: 割れ目間隔は1~3cm程度で不規則である。微細な割れ目を伴う。割れ目に褐色の細粒物質が挟在する。				5	100													
				黄褐	Dg	Vg	cg	δ	2		20.03~24.59m: 傾斜が15~30°の割れ目は一部で僅かに変位し、0.5~1.0mm程度の白色の粘土脈を挟在する。周辺は砂状化している。				10	100													
				にぶい黄橙	Cg			γ			21.10m: 傾斜40°, 幅5~8mmの淡黄色の角礫質粘土状を呈する。				11	100													
				花崗斑岩	Dg						24.59~24.81m: 傾斜60°と25°前後の割れ目が細かく交差する。				9	100													
				にぶい黄橙	Eg	Vg	dg	δ	3		●24.60~25.04m: 破砕部 破砕幅は24.9cmである。 粘土混じり角礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は65°, 下端境界の傾斜は45°である。径10~20mmの軟化した岩片が主体となる。				11	100					12/6	135	86 / 泥水						
				にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	2		●26.70~26.87m: 破砕部 (D-36) 破砕幅は10.9cmである。 26.70~26.73m: 角礫質粘土状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は45°, 下端境界の傾斜は50°である。				10	100													
				にぶい黄橙	Eg	Vg	dg	δ	3		26.73~26.74m: にぶい橙色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.0cmである。下端境界の傾斜は50°である。				10	100													
	-17.99	28.00			にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	2	26.74~26.87m: 淡黄色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。				10	100			12/7	220									

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.														1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

事業・工事名

ボーリング名	B8-34				調査位置					北緯					
発注機関										東経					
調査業者名					主任技師					現代場人		コ定ア者		ボーリング責任者	
孔口標高	7.39 m														
総掘削長	72.00 m														ハンマー落下用具

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩色	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変質	記事	コア採取率 (%) → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図				原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給排水量 (L/分)	回圧 (MPa)	送水量 (L/分)			
													0	10	20	30								40	50	
				灰黄褐 にぶい黄橙 灰黄褐 盛土 灰黄褐 灰黄褐					0.00~8.80m: 盛土である。0.00~3.83m: 硬混じり粗砂からなる。礫は径2~30mmの黒色砕石、1~5mmの石英、2~10mmの花崗斑岩礫である。試験による埋戻し土である。																	
		1.17	8.80						3.83~6.60m: 砂礫からなる。礫は径1~5mmの石英、5~60mmの花崗斑岩岩片、5~20mmの黒色の砕石からなる。礫率は30%程度である。基質は細い中~粗粒砂からなる。																	
		0.85	9.25	粘土 粘り砂					6.60~6.93m: 有機質砂からなる。炭化した木屑や植物片を含む。径5~10mmの花崗斑岩岩片も少量含む。6.93~8.80m: 砂からなる。細い中粒砂が主で、径2~5mmの黒色の砕石が点在する。																	
		0.21	10.16	粘り砂 黒褐 灰黄褐 黒褐 黒褐 黒褐					8.80~31.51m: 上部は有機物混じり砂質土、下部は砂礫主体の第四系である。8.80~9.25m: 粘土である。傾斜40°の3月に腐植物を挟む。9.04m以深: 石英などの細礫を含む。9.25~10.16m: 有機質土混じり砂である。中粒砂が主となる。10.16~12.80m: 高有機質土である。径30mmの木屑を含み、締まっている。																	
		-1.66	12.80	黒褐 灰黄褐 灰黄褐 高有機質土 黒褐					12.80~13.96m: 有機質土混じり砂である。中粒砂が主となる。一部に高有機質土を挟み、緩くなっている。																	
		-2.48	13.96	粘り砂 灰黄褐 灰黄褐 高有機質土 黒褐					13.96~15.41m: 高有機質土である。一部に未分解の木屑や砂分を含む。																	
		-3.51	15.41	灰黄褐 粘り砂 高有機質土 黒褐 互層 灰黄褐					15.41~19.75m: 互層である。砂と高有機質土の互層からなり、前者は幅10~160mm、後者は幅30~350mmである。15.41~15.75m: 有機質土混じり中粒砂と有機質混じり粘土からなり、後者には植物片を多く含む。15.75~17.05m: 分級のよい細粒砂からなる。17.05~18.15m: 石英粒や有機物片を多く含む中粒砂を挟む。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験 (標準貫入) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)												
													N 値 ~ 深度	0	10	20	30												40	50										
				黄灰																																				
		-6.58	19.75	互層	褐灰																																			
		-6.94	20.26	互層	灰黄																																			
		-7.46	21.00	互層	黒褐																																			
		-8.07	21.86	互層	砂																																			
		-8.45	22.40	互層	スライム																																			
		-8.77	22.86	互層	砂																																			
		-8.87	23.00	互層	スライム																																			
		-9.09	23.31	互層	砂																																			
		-9.58	24.00	互層	スライム																																			
		-9.78	24.28	互層	砂																																			
		-10.65	25.51	互層	灰																																			
		-11.66	26.94	互層	灰黄																																			
		-12.85	28.62	互層	淡黄																																			
		-14.89	31.51	互層	砂																																			
				花崗斑岩	にぶい橙																																			
				花崗斑岩	橙																																			
				花崗斑岩	褐灰																																			
				花崗斑岩	にぶい橙																																			
				花崗斑岩	浅黄橙																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
													N	値																	
					浅黄橙	Eg Vg cg		3	●42.86~42.97m: 破砕帯 (f-b8-34-2) 破砕幅は5.2cmである。 粘土混じり角礫状を呈し、にぶい橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は62°。下端境界の傾斜は25°である。岩片間に幅1~2mmの白色の粘土脈が分布する。 42.97~46.32m: 傾斜10~40°の割れ目が主となる。一部で割れ目沿いに砂状化している。	0 50 100 9 (0) 100 8 (0) 100 7 (0) 100 6 (0) 100 5 (0) 100 4 (0) 100 3 (0) 100 2 (0) 100 1 (0) 100	D'								3/30	115			16.0	100							
					明褐灰	Dg Vg cg		2			CL'								125			0.1	泥水 10	10							
					明褐灰	Eg Vg cg		3	46.32~46.37m: 上下端の傾斜25°の割れ目間で著しく軟化している。 ●50.24~51.87m: 破砕部 破砕幅は149.3cmである。 50.24~50.25m: 灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.8cmである。傾斜は70°である。 50.25~50.97m: 角礫質粘土状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。径10mmまでの石英・岩片を含む。50.60~51.50mの岩片間には、白色の粘土脈が多数分布する。 50.97~51.50m: 暗灰白色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。 51.50~51.71m: 粘土質角礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。 51.71~51.75m: 灰白色の固結した粘土状部からなる。下端境界の傾斜は75°である。下端側に少量の粘土化した岩片を含む。 51.75~51.87m: 粘土混じり角礫状を呈する。にぶい黄褐色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は65°である。白色の粘土が網状に分布する。 52.11~53.45m: 著しく軟化している。岩組織と割れ目はほぼ消滅する。	0 50 100 9 (0) 100 8 (0) 100 7 (0) 100 6 (0) 100 5 (0) 100 4 (0) 100 3 (0) 100 2 (0) 100 1 (0) 100	D'											4/1	90			26.0	150	0.1	泥水 10	3	
					明黄褐	Eg Vg dg		3			D'								105			0.1	泥水 10	1							
					花崗斑岩	Dg Vg cg		δ			CL'								90												
					にぶい黄橙	Eg Vg dg		3	54.51~54.82m: 角礫化し、土砂状を呈する。マンガン汚染で黒褐色化している。 55.04~56.81m: 径5~100mmに角礫化している。基質の一部は粘土化部や白色の粘土脈が分布する。	0 50 100 9 (0) 100 8 (0) 100 7 (0) 100 6 (0) 100 5 (0) 100 4 (0) 100 3 (0) 100 2 (0) 100 1 (0) 100	D'									4/2	86 / 泥水										
					にぶい黄橙	Dg Vg cg		3	56.81~58.31m: 傾斜10~40°の割れ目が主となる。一部で70~80°の割れ目が斜交し、径5mm前後に角礫化している。 58.31~59.92m: 割れ目沿いに砂状化。幅1~2mmの粘土脈を挟む。	0 50 100 9 (0) 100 8 (0) 100 7 (0) 100 6 (0) 100 5 (0) 100 4 (0) 100 3 (0) 100 2 (0) 100 1 (0) 100	CL'									90											
					にぶい黄橙	Eg Vg dg		3			D'								105												
					にぶい黄橙	Dg Vg cg		3	62.16~62.67m: 粘土脈が網状に分布する。 62.50m: マンガン汚染により黒褐色化した粘土脈が分布する。最大幅は12mmである。	0 50 100 9 (0) 100 8 (0) 100 7 (0) 100 6 (0) 100 5 (0) 100 4 (0) 100 3 (0) 100 2 (0) 100 1 (0) 100	CL'									90											
					アブライト	Eg Vg cg		2	62.67~72.00m: アブライトである。 62.67m: 傾斜50°のシャープな割れ目を境に岩相が変化している。 62.67~64.51m: 傾斜20~30°と、これに交差する直線的な60~70°の割れ目が分布する。	0 50 100 9 (0) 100 8 (0) 100 7 (0) 100 6 (0) 100 5 (0) 100 4 (0) 100 3 (0) 100 2 (0) 100 1 (0) 100	D'									4/5	65			26.0	150						
					明褐灰	Eg Vg dg		2	66.07~66.17m: 割れ目交差部で角礫化している。	0 50 100 9 (0) 100 8 (0) 100 7 (0) 100 6 (0) 100 5 (0) 100 4 (0) 100 3 (0) 100 2 (0) 100 1 (0) 100	CL'									4/6	50			36.0	200						
					明褐灰	Eg Vg dg		2	66.81~66.91m: 上端の傾斜40°と下端の傾斜63°の割れ目に囲まれ著しく軟化している。白色の粘土脈を挟む。	0 50 100 9 (0) 100 8 (0) 100 7 (0) 100 6 (0) 100 5 (0) 100 4 (0) 100 3 (0) 100 2 (0) 100 1 (0) 100	CL'									4/6	50			36.0	200						

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.

1

事業・工事名

ボーリング名	B8-35		調査位置		北緯	
発注機関					東経	
調査業者名	主任技師		現代場人		ボーリング者	
孔口標高	7.15 m	角	180° 上	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配
総掘削長	50.00 m	度	下 0°	向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	鉛直 0° 水平 0°
						使用機種
						試験機
						ハンマー 落下用具
						コ定ア者
						ポンプ
						エンジン

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩色	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													N	図												
			埋土	黒色					0.00~2.05m: 埋土である。粗粒砂からなる。試験孔の埋戻し土である。																	
	5.58	2.05	盛土	にぶい黄褐色					2.05~6.65m: 盛土である。2.05~5.67m: 砂礫からなる。径5~80mmの硬質花崗斑岩礫を主体とする。基質はやや細かい粗粒砂からなる。黒色の砕石片が点在する。																	
									4.50m以深: 礫が密集する。																	
									5.67~6.38m: 粗粒砂からなる。やや細かい。																	
	2.06	6.65	褐灰	黒色					6.65~30.11m: 上部は有機質土混じり砂質土。下部は砂礫主体の第四系である。																	
	1.86	6.90	砂	にぶい黄褐色					6.65~6.90m: 粘土混じり砂である。中粒砂が主体となる。																	
	1.63	7.20	砂	黒色					6.90~7.20m: 砂混じり粘土である。7.20~8.08m: 砂である。粗粒砂が主となる。																	
	0.96	8.08	砂	黒色					8.08~8.69m: 高有機質土である。上部はシルト~細粒砂を多く含む。8.25~8.44m: 中粒砂からなる。8.69~9.92m: 有機質土混じり砂である。																	
	0.49	8.69	砂	黒色					8.92~9.00m: 有機質粘土を挟む。9.48~9.59m: 植物片多量に含む。9.92~10.40m: 高有機質土である。下部は低有機となり粘土分が多い。																	
	-0.45	9.92	砂	黒色					10.40~11.38m: 砂である。11.12m以深は中粒砂が主で径10mm前後の礫が点在する。11.38m以深は粗粒砂が主で幅20~30mmの有機質土を挟む。																	
	-0.82	10.40	砂	黒色					11.12~11.38m: 有機質粘土を呈する。11.29m以深は高有機質である。11.78~12.60m: 高有機質土である。12.24~12.29m: 砂・粘土を挟む。12.60~13.13m: 砂である。																	
	-1.87	11.78	砂	黒色					中粒砂が主となる。13.13~13.49m: 高有機質土である。13.48~13.58m: スライムである。13.58~15.35m: 砂である。																	
	-2.50	12.60	砂	黒色					中粒砂が主となる。14.00m以深は径40mm以下の花崗斑岩礫を含む混じり粗粒砂からなる。14.00~14.09m: 高有機質土からなる。																	
	-2.91	13.13	砂	黒色					14.09m以深: 中粒砂で一部に有機質分を含み、下部は締まった砂質粘土を呈する。																	
	-3.18	13.48	砂	黒色					15.35~17.21m: 混じり砂である。径2~5mmの石英細礫を含む。15.91~16.50m: 中粒砂が主となる。																	
	-3.25	13.58	砂	黒色					17.21~17.56m: 砂である。中粒砂が主となる。																	
	-4.61	15.35	砂	黒色					17.56~17.73m: 砂混じりシルトである。																	
	-6.03	17.21	砂	黒色					17.73~20.34m: 砂である。中粒砂が主で、一部に幅約20~30cmの砂礫・粘土を挟む。																	
	-6.30	17.56	砂	黒色					18.00~18.68m: スライムである。																	
	-6.43	17.73	砂	黒色					20.08~20.15m以深: 有機質の粘土分が多い。																	
	-6.64	18.00	砂	黒色																						
	-7.16	18.68	砂	黒色																						

標	尺	深	柱	岩	色	硬	割	風	変	記	コ	割	コ	岩	孔	標準貫入				室	掘	掘	孔	給	回	送	排
																(N値~深度)											
高	度	状	区	種	調	軟	目	化	事	率	取	取	取	取	内	貫	入	貫	入	入	入	入	入	入	入	入	入
(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(m)	(N)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)
-8.43	20.34	砂	黄緑							20.34~20.76m: スライムである。																	
-8.75	20.76	スライム	黄緑							20.76~22.00m: 砂混じり粘土である。																	
-9.70	22.00	砂	黄緑							締まった粘土で細粒~粗粒砂が上方細粒化し、僅かに炭化物片も混入する。																	
-10.76	23.38	砂	黄緑							20.76~21.38m: 最大径60mmの硬質礫を含む混じり砂質粘土、砂礫を呈する。																	
-11.35	24.15	砂	黄緑							22.00~23.38m: 礫である。径40~570mm(コア長)の硬質な花崗斑岩垂直角礫が主となる。																	
-12.25	25.32	砂	黄緑							23.38~24.15m: 砂礫である。礫は径2~5mmの石英、長石、5~200mmの花崗斑岩垂直~垂直角礫で半クサリ礫が主となり、礫率は50%程度である。基質は締まった粘土混じり中粒砂からなる。																	
-13.15	26.50	砂	黄緑							24.15~25.32m: 礫である。径10~610mmの垂直~垂直角礫からなる。一部に石英、長石を含む粗粒砂を混む。																	
-13.51	26.97	スライム	黄緑							25.32~26.50m: 砂である。径3~6mmの石英を含む粗粒砂が主となる。																	
-13.92	27.51	スライム	黄緑							26.29~26.50m: 硬質なアブライト礫からなる。																	
-14.38	28.10	砂	黄緑							26.50~26.97m: スライムである。																	
-15.92	30.11	花崗斑岩	黄緑							26.97~27.51m: 締混じり砂である。粗粒砂が主となる。全体に緩い。径5mmまでの石英、長石、30mmまでの花崗斑岩、アブライト礫を含む。																	
-17.11	31.67	花崗斑岩	黄緑							27.51~28.10m: スライムである。																	
-17.36	32.00	花崗斑岩	黄緑							28.10~30.11m: 砂礫である。礫は石英、長石、花崗斑岩垂直~垂直角礫、硬質なアブライト角礫からなる。花崗斑岩は半クサリ礫が主となる。基質はよく締まった中~粗粒砂からなる。																	
-18.31	33.24	花崗斑岩	黄緑							30.11~50.00m: 花崗斑岩である。30.11~30.51m: 著しく軟化する。																	
-18.56	33.56	花崗斑岩	黄緑							●30.51~31.53m: 破砕部																	
-19.31	34.54	花崗斑岩	黄緑							破砕幅は75.3cmである。																	
-19.66	35.00	花崗斑岩	黄緑							30.51~31.75m: 浅黄褐色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は25°である。																	
		花崗斑岩	黄緑							31.75~31.99m: 角礫質粘土状を呈し、浅黄褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は70°である。																	
		花崗斑岩	黄緑							31.99~31.38m: 灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.4cmである。下端境界の傾斜は68°である。石英粒を含む。																	
		花崗斑岩	黄緑							31.38~31.53m: 浅黄褐色の固結した礫状部からなる。径10mmまでの岩片を含む。31.42cm以深は大半が径5~30mmの粘土した岩片で、岩片間には幅1~2mmの粘土脈が分布する。																	
		花崗斑岩	黄緑							31.53~31.67m: スライムである。																	
		花崗斑岩	黄緑							31.67~32.00m: コア欠																	
		花崗斑岩	黄緑							32.00~32.19m: スライムである。																	
		花崗斑岩	黄緑							32.19~32.68m: 著しく軟化している。																	
		花崗斑岩	黄緑							32.68~32.71m: 破砕部																	
		花崗斑岩	黄緑							破砕幅は1.8cmである。																	
		花崗斑岩	黄緑							角礫質粘土状を呈し、黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は60°、下端境界の傾斜は70°である。径20mmまでの石英、長石、岩片を多く含む。																	
		花崗斑岩	黄緑							32.71~33.24m: 著しく軟化している。																	
		花崗斑岩	黄緑							33.24~33.56m: コア欠																	
		花崗斑岩	黄緑							●33.56~33.98m: 破砕部																	
		花崗斑岩	黄緑							破砕幅は18.0cmである。																	
		花崗斑岩	黄緑							33.98~33.89m: 粘土混じり角礫状を呈し、灰白色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は60°である。																	
		花崗斑岩	黄緑							33.89~33.93m: 黄褐色の角礫質粘土状を呈する。未固結の礫状部からなり、幅は4.1cmである。下端境界の傾斜は60°である。上から明赤灰色、橙色、灰白色、黄褐色の粘土が縞状に分布する。																	
		花崗斑岩	黄緑							33.93~33.95m: 黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は2.0cmである。																	
		花崗斑岩	黄緑							径5mmまでの石英、岩片を含む。																	
		花崗斑岩	黄緑							33.95~33.98m: 角礫質粘土状を呈し、灰白色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は55°である。径5mmまでの石英、岩片を含む。																	
		花崗斑岩	黄緑							34.54~35.00m: コア欠																	
		花崗斑岩	黄緑							37.21~37.22m: 幅8mm、明灰オリーブ色の粘土脈を挟んでいる。傾斜40°で波打つ。																	
		花崗斑岩	黄緑							37.90~38.36m: 岩片状を呈する。																	
		花崗斑岩	黄緑							●38.36~38.41m: 破砕部																	
		花崗斑岩	黄緑							破砕幅は4.0cmである。																	
		花崗斑岩	黄緑							灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は4.0cmである。径10mmまでの岩片を含む。																	
		花崗斑岩	黄緑							40.80m: 傾斜50°の割れ目の下盤側が幅2~5mmで緑色化している。微細な不透明鉱物が晶出している。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化	変 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D ⌊ [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図					原 位 置 試 験 (孔内水平動態)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー ラ ノ ピ ット	給 回 水 数 (r/min MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)
															0	10	20	30	40									
-31.15	50.00		花崗斑岩	明褐灰	Dg			δ 3			43.36m：傾斜53°，幅4～6mmの石英脈である。 44.67～44.85m：土砂状を呈する。 45.76m：傾斜68°，幅9mmで灰白色～明赤灰色の粘土を挟む。周縁は幅4～12mmが緑灰色化し，微細な雲母が露出している。								95		4/25	75	86 / 泥水	5.0	160	0.1	3	
				灰褐	Cg			γ 2											80	4/26								
				にぶい橙	Dg			δ 3																				
				灰オリーブにぶい橙																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・r / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														N	値																
		10.21	18.45		灰黄					18.45~18.86m: シルト混じり砂である。細粒砂が主となる。よく締まる。								5/2	105	100 / ケーシング			0.1	泥水 5	5						
		10.59	18.86		黄橙					18.86~22.30m: 砂礫である。径5~320mm花崗斑岩、花崗岩と少量のアブライトからなり、歪角~歪円礫で半くさり~くさり礫が主となる。礫率は50%程度である。基質は粗粒砂で上端は砂分が優勢である。									5/3	65	100 / ケーシング			0.1	泥水 10	10					
		13.83	22.30		灰白 褐灰 にぶい黄橙 褐					22.30~36.00m: 花崗斑岩である。22.30~24.19m: 著しく風化し岩組織と割れ目はほぼ消滅する。傾斜70°、幅1~9mmの灰白色~にぶい黄橙色の粘土脈が分布する。 ●24.19~27.68m: 破砕部 破砕幅は60.6cmである。 24.19~26.83m: 角礫質粘土状を呈し、浅黄橙色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°である。24.40m以浅は径5~20mmの岩片が主体となる。 26.83~26.84m: にぶい黄橙色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.5cmである。傾斜は85°である。径1~2mmの石英粒を少量含む。 26.84~27.51m: 粘土混じり角礫状を呈し、浅黄橙色の固結した礫状部からなる。 27.51~27.68m: 浅黄橙色の割れ目の密集部からなる。													5/4	75	100 / ケーシング						
					にぶい黄橙 黄褐														5/4	125	ダブルコアチップ / ダイマキモノコンクリート			0.1	泥水 5	5					
					浅黄橙														5/10	90	ダブルコアチップ / ダイマキモノコンクリート			0.1	泥水 5	5					
					にぶい橙 にぶい浅黄橙 にぶい黄橙																										
					花崗斑岩																										
					明褐灰 浅黄橙 にぶい黄橙																										
		26.70	36.00							35.45m: 幅1~2mmの白色の粘土が挟在する。 35.62~36.00m: 割れ目沿いに砂状化している。幅1~2mmの粘土脈も分布する。															0.1	泥水 10	10				

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級	区分	孔内水位 (N) 値 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアシューブ ノズル	給圧 (kN/MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水 (L/分)											
30	-9.27	23.15		礫混じり砂	灰黄	硬				20.60~20.88m: 酸化汚染を受け、斑状に褐色化している。	0							6/29	55	115 / ケーシング	ダブルコチューブ / タイヤモンロリアン	80.0	100	0.1	泥水10	10											
				にぶい黄橙		22.50~23.15m: 軽微だが酸化汚染を受け、コアは淡褐色を帯びる。	100		6/30	180	80.0	0.1	泥水10					10																			
	-10.58	25.00		礫質砂	明褐灰	軟				23.15~25.00m: 礫質砂である。径2~5mmの細礫と24.50m付近の径20~50mmの礫を含み、礫率は30%程度である。基質はシルトを含む細~粗粒砂で不均質である。	100							29	20.0								0.1	泥水1	0								
				灰黄	灰			25.00~25.78m: 砂礫である。径40~100cmのアプライト、花崗斑岩の垂角~垂円礫を50~60%である。基質は細~粗粒砂で不均質である。25.45m以深は有機質分を含む。25.78~29.53m: 玉石混じり砂礫である。径10~100cm程度のアプライト、花崗斑岩の垂角~垂円礫を5~60%含む。基質は径2~5mmの細礫を含む不均質な砂からなる。26.94~28.00m: 上下位に比べて礫率が低く、礫は径10~20mm(最大径40mm)の垂角~垂円礫が主となる。基質は細~粗粒砂からなる。	100		7/2	52	16.0					110	0.1								泥水1	0									
	-11.13	25.78		砂礫	灰黄					25.78~29.53m: 玉石混じり砂礫である。径10~100cm程度のアプライト、花崗斑岩の垂角~垂円礫を5~60%含む。基質は径2~5mmの細礫を含む不均質な砂からなる。26.94~28.00m: 上下位に比べて礫率が低く、礫は径10~20mm(最大径40mm)の垂角~垂円礫が主となる。基質は細~粗粒砂からなる。	100							70												7/2	65	16.0	110	0.1	泥水1	1	
				灰黄	灰			29.53~30.29m: シルト混じり砂である。細~中粒砂が主となる。部分的に径2~5mmの細礫が混じる。	100		7/3	57	26.0					100	0.1								泥水1	1									
	-13.78	29.53		玉石混じり砂礫	灰黄					30.29~38.07m: 玉石混じり砂礫である。径10~100mm(最大300mm)の垂角~垂円礫が主で、基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。礫率は40~60%程度である。30.90~31.55m: 上下位に比べて礫率が少なく、石英の細礫が主となる。	100							75												7/3	75	26.0	110	0.1	泥水1	1	
				にぶい黄橙		32.58~38.07m: 基質の締まり良好で、全体に風化で褐色化が強い。	100		7/4	90	110	15.0	120					0.1	泥水1								0										
	-14.32	30.29		シルト混じり	灰黄					34.78~35.72m: スライムである。	100																			7/4	90	110	15.0	120	0.1	泥水1	0
				にぶい黄橙		35.72~36.70m: 花崗斑岩礫である。	100		7/4	50	69	26.0	110					0.1	泥水1								0										
-17.49	34.78		玉石混じり砂礫	明黄褐					38.07~55.28m: アプライトである。斑晶はごく少量で微細な石英、長石を含む。38.07~40.45m: 風化で褐色化している。特に38.31~38.88mは岩芯で風化している。38.30m: 傾斜15°、幅5mmの石英脈である。38.88~40.45m: 1~10cm間隔で割れ目が発達する。割れ目に沿って風化が進む。40.45~47.07m: 割れ目間隔1~10cm間隔でやや割れ目が多いが硬質である。41.34~41.38m: 径約60mmの晶洞中に石英が晶出する。	100			7/5	143	15.0	120	0.1	泥水1	0																		
			にぶい黄橙		34.78~35.72m: スライムである。	100		7/5	50	69	26.0	110	0.1	泥水1	0																						
-18.16	35.72		スライム	明黄褐					38.07~55.28m: アプライトである。斑晶はごく少量で微細な石英、長石を含む。38.07~40.45m: 風化で褐色化している。特に38.31~38.88mは岩芯で風化している。38.30m: 傾斜15°、幅5mmの石英脈である。38.88~40.45m: 1~10cm間隔で割れ目が発達する。割れ目に沿って風化が進む。40.45~47.07m: 割れ目間隔1~10cm間隔でやや割れ目が多いが硬質である。41.34~41.38m: 径約60mmの晶洞中に石英が晶出する。	100									7/6	71	26.0	110	0.1	泥水1	1												
			明黄褐		42.34m: 傾斜50°、幅2~6mm、褐色の流入粘土を挟む。42.04m: 傾斜40°、幅3~4mmの流入粘土を挟む。	100		7/6	60	35	40.0	110	0.1	泥水1	1																						
-19.82	38.07		玉石混じり砂礫	明黄褐					42.34m: 傾斜50°、幅2~6mm、褐色の流入粘土を挟む。42.04m: 傾斜40°、幅3~4mmの流入粘土を挟む。	100								7/6	71	26.0	110	0.1	泥水1	1													
			明黄褐		42.34m: 傾斜50°、幅2~6mm、褐色の流入粘土を挟む。42.04m: 傾斜40°、幅3~4mmの流入粘土を挟む。	100		7/6	60	35	40.0	110	0.1	泥水1	1																						
40				アプライト	IIIg	γ	2	CL'	38.07~55.28m: アプライトである。斑晶はごく少量で微細な石英、長石を含む。38.07~40.45m: 風化で褐色化している。特に38.31~38.88mは岩芯で風化している。38.30m: 傾斜15°、幅5mmの石英脈である。38.88~40.45m: 1~10cm間隔で割れ目が発達する。割れ目に沿って風化が進む。40.45~47.07m: 割れ目間隔1~10cm間隔でやや割れ目が多いが硬質である。41.34~41.38m: 径約60mmの晶洞中に石英が晶出する。	100											86 / 泥水	40.0	110	0.1	泥水1	1											
					IVg	δ	3																														
					IIIg																																
					IVg																																
				IIIg			CM'	42.34m: 傾斜50°、幅2~6mm、褐色の流入粘土を挟む。42.04m: 傾斜40°、幅3~4mmの流入粘土を挟む。	100																												
IVg																																					
				IIIg																																	
				IVg																																	
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg					100																												
				IIIg																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														N	図													
				明褐灰	Cg IVg					70.19~71.24m: 硬質である。割れ目沿いと岩芯は風化で褐色化している。 71.69~72.72m: 割れ目沿いの風化で上下位によりも軟質化している。	CM'								69									
				にぶい黄橙	Bg IIIg					72.51~72.57m: 上端の傾斜50°, 下端の傾斜65°, 幅20mmの角礫混じり砂質シルト状を呈する。	CL'								71									
				褐灰	Cg IVg					73.51~74.70m: 割れ目が少なく新鮮・硬質である。	CM'								30									
				褐灰	Bg IIg					74.98m: 割れ目沿いに幅20mmにわたり風化・酸化帯が分布する。	CH'								340									
				明褐灰	Bg IIIg					75.43~75.66m: 割れ目が多く細片・細粒化している。	CM'								55									
				明褐灰	Cg IVg					76.68~77.80m: 割れ目が多く、風化も進み一部細片化している。	CL'								65									
				明褐灰	Bg IIg					79.06~79.76m: 割れ目が多く、割れ目沿いに細片化とマンガン汚染している。	CM'								86									
				明褐灰	Cg IVg					79.76~80.74m: 岩芯は概ね新鮮、割れ目沿いは風化で褐色化している。	CL'								86									
				明褐灰	Bg IIIg					80.74~83.23m: 割れ目間隔は5~40cmと割れ目少なく、非常に硬質である。	CM'								75									
				明褐灰	Bg IIg					83.32m: 割れ目に沿って幅5mmの褐色の軟質物を伴う。	CM'								80									
				明褐灰	Cg IVg					83.53~83.69m: 割れ目沿い細片化している。	CL'								80									
				明褐灰	Bg IIIg					83.85m: 傾斜45°, 幅5mmの石英脈である。	CM'								80									
				明褐灰	Cg IVg					85.17~85.23m: 割れ目沿いに細片~細粒化している。上端側に幅2~3mmの灰白色の粘土を挟在する。	CL'								76									
				明褐灰	Cg IVg					85.97~86.21m: 一部で割れ目沿いに細片~細粒化している。	CL'								80									
				明褐灰	Bg IIIg					87.52~88.93m: 角礫状を呈する。 88.66m: 傾斜60°, 幅3mmの灰白色の粘土を挟在する。	CM'								79									
				明褐灰	Bg IIIg					●88.93~88.97m: 破砕帯 (D-5) 破砕幅は3.8cmである。 88.93~88.96m: 淡黄色の固結した礫状部からなる。径1~3mmの石英細礫を含む。 88.96~88.97m: 淡黄色の未固結の粘土状部からなり、幅は0.3cmである。	CM'									84								
				明褐灰	Cg IVg					92.49~92.50m: 割れ目沿いに、傾斜40°程度、幅10~20mmの固結した細粒分を挟む。	CL'								84									
				明褐灰	Bg IIIg					93.64~93.80m: 傾斜75°の割れ目沿いに、幅1.5mmの褐色の粘土を挟在する。	CL'								84									
				明褐灰	Cg IVg					94.10m, 94.34m: 割れ目沿いに、幅1mm程度の褐色の粘土を挟在する。	CL'								84									
				明褐灰	Bg IIIg					94.97~95.45m: 割れ目が密集する。	CM'								88									
				明褐灰	Cg IVg					95.87~96.05m: 変質で軟化している。 95.92m以深は一部で岩組織が消滅する。 96.80m: 傾斜42°, 幅1~5mmの灰白色のシルトを挟在する。	CL'								88									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															(N 値)	(値)																	
		81.37 125.11		アフリット	灰褐	IV _g	IV _g		2		120.56~120.85m: 変質で割れ目沿いが軟化している。	24	CL'		0	10			8/24	70													
				アフリット	明灰褐	IV _g	IV _g		3		121.49~121.91m: 変質で脱色し黄色を帯びる。	19	CL'								54												
				アフリット	灰黄褐	III _g	IV _g		2		121.91~123.34m: 傾斜45°と70°の割れ目が斜交し密集する。割れ目沿いに細片~細粒化している。	23	CM'							8/25	61												
				アフリット	灰黄褐	III _g	IV _g		3		125.11~150.00m: 花崗斑岩である。125.11~125.50m: 割れ目、岩芯とも新鮮な硬質な岩盤である。126.09~126.29m: 変質で脱色し、長石類は白濁化している。微細な割れ目が発達し軟質である。	24	CL'										62										
				花崗斑岩	褐灰	III _g	IV _g				127.22~127.81m: 割れ目沿いにわずかに劣化している。岩芯は概ね新鮮である。	20	CM'							9/27	77												
				花崗斑岩	灰白	III _g	IV _g				128.18~128.68m: 岩盤が劣化し軟質である。	19	CL'									77											
				花崗斑岩	褐灰	III _g	IV _g				129.26~129.80m: 岩盤の劣化は軽微である。変質を受けるが硬質である。	19	CM'										50										
				花崗斑岩	にぶい黄緑	III _g	IV _g				130.37~130.47m: 岩盤が劣化し割れ目が密集する。割れ目沿いに細片化している。	19	CL'										86 泥水										
				花崗斑岩	灰褐	III _g	IV _g				131.04~131.90m: 傾斜40~60°の割れ目が分布する。	13	CL'																				
				花崗斑岩	にぶい黄緑	III _g	IV _g				132.64~132.75m: 割れ目が密集し割れ目沿いに細片化、細粒化している。	28	CL'																				
				花崗斑岩	灰黄	III _g	IV _g				133.26~133.97m: 変質で岩盤劣化し、割れ目が多い。 133.83m: 傾斜65°、幅2~10mmのマングが存在する。上端に幅1mmの褐色細粒物質脈を伴う。 134.93~135.46m: 割れ目が多く、一部で密集する。割れ目及びその周縁は褐色化している。岩芯は概ね新鮮である。	2	CM'																				
				花崗斑岩	灰褐	III _g	IV _g				135.61~136.00m: 傾斜60°程度の割れ目が斜交し、割れ目沿いは細片化している。	19	CL'																				
				花崗斑岩	灰黄褐	III _g	IV _g				137.68~139.20m: 傾斜45~60°の割れ目が間隔1~10cmで、微細な割れ目も同傾斜で分布する。割れ目沿いは細片化している。	30	CM'																				
				花崗斑岩	明褐灰	III _g	IV _g				139.68~139.80m: 岩盤が劣化し赤色を帯びる。割れ目沿い細粒化している。	24	CL'																				
				花崗斑岩	にぶい黄緑	III _g	IV _g				140.76~140.96m: 傾斜20°と80°の割れ目が斜交し、径10~30mm程度に細片化している。	34	CM'																				
				花崗斑岩	褐灰	III _g	IV _g				141.35~143.15m: 一部で割れ目沿い風化、褐色化するが、割れ目少なく硬質である。	21	CL'																				
				花崗斑岩	にぶい黄緑	III _g	IV _g				●143.67~143.77m: 破碎部 破碎幅は5.3cmである。 角礫状を呈し、褐灰色の固結した礫状部からなる。	34	CL'																				
				花崗斑岩	にぶい黄緑	III _g	IV _g				144.06~144.45m: 変質で劣化している。すべての割れ目に、淡赤白色のシルトが主となる細粒物質が挟在する。	10	CL'																				

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	割 れ 目 の 状 態	風 化 変 質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 月 日	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深 度) 図					原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 差 毫 米)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm / 時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー ル ノ ー ツ	給 水 圧 (kN ・ MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)	
													0	10	20	30	40												50
		98.97	150.00						145.35~146.11m: 傾斜45°程度の割れ目が主となる。割れ目沿いに褐色の細粒物質が付着、挟在する。 147.97~148.40m: 傾斜60°割れ目に褐色の細粒物質が挟在する。 149.38~149.46m: 割れ目が多く割れ目沿いに細片化したマンガン汚染を受ける。												8/31	65	86 / 泥水	ダブルコアチューリング/ダブルウェル保護	20.0	110	0.1	泥水4	0

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.

1

事業・工事名

ボーリング名	B11-2		調査位置		北緯
発注機関				調査期間	東経
調査業者名	主任技師			現代理人	ボーリング者
コ定ア				ハンマー	
孔口標高	3.14 m	角	180°	方	
総掘削長	150.00 m	度	下	向	
試験機				ポンプ	
エンジン					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]	標準貫入 (N値~深度) 試験			室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	送水量 (L/分)	送水圧 (MPa)	回転数 (rpm)	給圧 (kN/MPa)								
																			(N)	(N)	(N)															
											0.00~5.00m: 埋土である。 0.00~3.84m: 礫混じりシルト質砂からなる。 0.00~1.50m: 垂円~垂角礫からなる。基質は細~粗粒砂からなり不均質である。 1.50~3.84m: 細砂~粗砂の不均質な砂からなる。全体にシルトと径2~10mmの垂円~垂角礫の細礫を含む。礫種は花崗斑岩、アブライトを含む。																									
											3.84~4.85m: シルト混じり粗粒砂からなる。粗粒砂を主体とする。 4.85~5.00m: 礫混じりシルト質砂からなる。白色の人工物を混入する。																									
											5.00~26.19m: 砂質土主体の第四系である。 5.00~7.59m: 礫混じり砂である。 5.00~5.95m: 細粒~粗粒砂で、全体に径2~5mmの細礫が混じる。 5.30~5.35m: 細粒分に富む。 5.95~6.73m: 粗粒砂が主で、全体に暗い色調である。僅かに有機物が見られる。 6.73~7.59m: 粗粒砂が主体となる。																									
											7.59~13.92m: 砂である。 7.59~8.63m: 粗粒砂が主体となる。 8.36~9.40m: 中粒砂が主体となる。																									
											9.40~10.54m: 上位側は細粒砂で、中央~下部側は中~粗粒砂が主となる。全体的には上方細粒化している。																									
											11.83~13.92m: 粗粒砂が主体である。全体にシルト~細礫の混じる不均質な砂である。有機物が見かけ90°で分布する。																									
											13.92~14.94m: 礫混じり砂である。細礫の混じる粗粒砂が主で、シルトをわずかに混入する。また有機物を含む。 14.32~14.40m: 径4~5mmの細礫を多く混入する。 14.94~17.04m: 砂である。粗粒砂が主となる。全体に細粒砂と細礫を含む。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														N	深度															
	-8.91	17.04	砂		灰					17.04~18.73m: 礫混じり砂である。径2~4mmの石英細礫を含む細~中粒砂からなり、上位と比べて礫率は低く10%程度である。少量の有機物を含む。																				
	-10.10	18.73	種質砂							18.73~19.05m: 礫質砂である。細~中粒砂が主で、径2~5mmの細礫を10~20%含む。径1~3mmの炭質物を混入する。																				
	-10.33	19.05	有機質土混じり砂		黄灰					19.05~22.69m: 有機質土混じり砂である。細~中粒砂が主で、粗粒砂~細礫をわずかに混入する。径2~10mm、最大50mmの炭化物が散在する。																				
	-12.90	22.69	シルト混じり礫質砂 / 砂礫互層		褐灰					22.20~22.65m: 中~細粒砂主体となる。2mm以下の片状もしくは繊維状の有機物が散在する。																				
	-14.63	25.13	シルト混じり礫質砂 / 砂礫互層		灰オリーブ					22.69~25.13m: シルト混じり礫質砂、砂礫互層である。シルト混じり礫質砂は中粒砂が主で、径10~40mmの歪角~重円礫を含む。単層幅は20~70cmである。砂礫は径10~50mmの歪角~重円礫を40~60%含む。基質はシルト混じり中粒砂からなる。単層幅は20~40cmである。地層境界に有機質砂が挟在する。																				
	-15.38	26.19	礫混じりシルト質砂		灰黄					25.13~26.19m: 礫混じりシルト質砂である。径2~5mmの石英、及び5~40mmの歪角~重円礫を数~15%含む。																				
					明褐灰					26.19~123.51m: アブライトである。微細な石英、長石斑晶を少量含む。26.36m: 流入土砂である。傾斜25°、幅4mmの淡赤白色の粘土混じり砂からなる。26.75m: 傾斜80°と50°の割れ目が斜交する。交差部は幅5mmが劣化している。																				
					淡褐					28.17~28.37m: 風化で軟化している。																				
					明褐					29.00~29.03m: 開口割れ目にシルト質細砂が流入する。傾斜は45°程度である。29.55~29.57m: 開口割れ目に細砂、および細礫が流入する。29.85~29.91m: 開口割れ目に黒褐色の土砂が流入する。固結している。																				
					明褐灰					30.54~30.58m: 淡褐色の粘土が混入する。周囲はマンガン汚染が広がる。30.83~30.88m: 土砂が流入する。大半はマンガンに置換される。31.67~31.69m: 割れ目に黒褐色の砂、有機物が流入する。31.94~32.04m: 橙色の粘土が流入する。軟質で指圧で容易に変形する。																				
					灰白					32.53m: 傾斜45°、幅6~7mmの粗粒砂混じり粘土を挟在する。33.31~33.36m、33.50~33.59m: 赤褐色~橙色の粘土が流入する。33.73m: 割れ目の傾斜は80°である。下盤側、幅3cmは変質で赤褐色化している。																				
					にぶい黄橙					34.05~34.73m: 風化変質で割れ目は消滅する。																				
					にぶい黄橙					35.64~35.67m: 上端の傾斜80°。下端の傾斜は不明瞭。幅20~25mmの粘土混じり砂状を呈する。岩組織は消滅する。35.77~37.12m: 不規則に灰白色の粘土を伴う。36.22~37.12m: 灰白色、赤白色、緑灰色を呈する粘土を伴い脆弱である。																				
					明褐灰					37.45~39.94m: 割れ目は少なく硬質である。傾斜30~40°と70°程度の割れ目が10~20cm間隔で発達する。																				
										39.94~42.09m: 割れ目が多く、マンガン汚染、付着も多い。40.26m: 傾斜75°、幅6mmの淡褐色の流入粘土を挟在する。固結している。																				
										41.30~41.70m: やや軟質化している。割れ目沿いに細片~細粒化している。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															N	値																		
70			アブライト	明褐灰	Cg	IVg					66.05~69.34m: 割れ目密集部が見られ、割れ目間隔5~10cmが主体となる。 66.79~67.09m: 割れ目密集部である。コアは岩片状を呈する。	CL'			0	75		7/28	75				0.3	泥水10	8									
				明赤灰	Bg							69.34~70.05m: 上位に比べて硬質である。69.77mまで割れ目自じの褐色化が目立つ。	CL'			0																		
				灰黄	Cg	IIIg						70.94~71.21m: 実質劣化し浅黄色化している。岩組織はほぼ残留する。	CM'			0	67									0.2	泥水	5						
				にぶい黄緑	Dg							●71.21~71.24m: 破砕帯 (D-7) 破砕幅は1.0cmである。 淡黄色の練泥じり粘土状を呈し、固結した粘土状部からなる。上端境界の傾斜は65°、下端境界の傾斜は70°である。				0																		
				明黄褐	Vg							71.24~72.04m: 傾斜20~30°と50~60°の割れ目が交差し劣化している。				0	107																	
				灰白	Cg							74.80m: 傾斜50°、幅1mm。緑灰白色の粘土を呈する。 75.60m: 傾斜50°、幅8mm。緑灰白色の粘土を呈する。	CL'			0	116																	
				灰白	Dg	Vg						●77.48~78.10m: 破砕帯 (f-b11-2-2) 破砕幅は43.8cmである。 77.48~78.05m: 練泥じり砂状を呈し、明赤灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は70°である。 78.05~78.10m: 褐色の未固結の粘土状部からなり、幅は1.5cmである。				0	90																	
				明赤灰	IVg							79.46~79.65m: 上端の傾斜60°、下端の傾斜65°の粘土混じり砂礫状を呈する。上端に幅10mmの灰白色の粘土混じり砂を伴う。	D'			0	120																	
				明赤灰	Cg	IVg	cg					●80.50~83.93m: 破砕帯 (D-6) 破砕幅は171.5cmである。 80.50~80.51m: 淡黄色の砂混じり粘土状を呈し、固結した粘土状部からなる。傾斜は45°である。 80.51~83.69m: 淡黄色~灰白色の割れ目の密集部からなる。 83.69~83.78m: 練泥じりシルト質砂状を呈し、淡黄色の固結した礫状部からなる。 83.78~83.80m: 灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.7cmである。傾斜は60°である。 83.80~83.81m: 硬質粘土状を呈し、浅黄色の固結した礫状部からなる。 83.81~83.93m: 角礫状を呈し、浅黄色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。	CL'			0	78																	
				明赤灰	Dg	Vg						80.50~80.51m: 淡黄色の砂混じり粘土状を呈し、固結した粘土状部からなる。傾斜は45°である。 80.51~83.69m: 淡黄色~灰白色の割れ目の密集部からなる。 83.69~83.78m: 練泥じりシルト質砂状を呈し、淡黄色の固結した礫状部からなる。 83.78~83.80m: 灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.7cmである。傾斜は60°である。 83.80~83.81m: 硬質粘土状を呈し、浅黄色の固結した礫状部からなる。 83.81~83.93m: 角礫状を呈し、浅黄色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。	D'			0	80																	
				淡黄	Eg	VIg	dg					83.93~84.63m: やや硬いが割れ目は1~4cm間隔で発達し割れ目が多く片状化している。	CL'			0	80																	
				灰白	Dg	Vg	cg					86.64~86.72m: 微細な割れ目が密集する。風化が顕著である。				0	43																	
				淡赤橙	Cg	IVg						87.59~89.82m: 割れ目間隔は10~20cmで割れ目は少なく、硬質~一部で非常に硬質である。風化で褐色化している。	CL'			0	53																	
				淡赤橙	Bg							89.00~89.04m: 傾斜60°、幅25mm。灰色の石英脈である。	CM'			0	64																	
			淡赤橙	Cg							90.13~98.10m: 非常に硬質である。ハンマー打撃で金属音を発する。 90.13~93.40m: 割れ目間隔は10~25cmが主となる。				0	100																		
			淡赤橙	Bg	IIIg						91.20m: 傾斜60°、幅20mm。灰色の石英脈である。周囲の一部は風化し、褐色化している。				0																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	掘進 掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノズル	給 回 送 排 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	泥水 量 (L/分)			
															N	深度													
				明褐灰	IIIg						93.84~97.91m: 割れ目間隔は10~20cmが主で、所々マンガン汚染が広がる。				0	100			8/3	100				140	0.2	泥水10	9		
				淡赤橙	Bg IIIg					γ 2	97.91~98.16m: コアは硬質であるが、割れ目沿いにマンガン・酸化汚染が広がる。									8/4	98								
				にぶい橙	IVg						98.16~98.50m: 間隔3cm未満の網目状に細かく割れ目が発達する。角礫状化する。上端の傾斜は60°程度である。											73 / ケーシング			120	0.2	泥水5	4	
				橙	IIIg						98.50m: 傾斜60°, 幅2~5mm. 軟質な黄褐色の粘土状を呈する。																		
				淡赤橙	IVg						98.50~98.59m: 砂礫状を呈する。岩組織は不明瞭で軟質である。下端に傾斜50°で幅2~8mmの暗褐色の酸化帯を伴う。																		
				淡黄	Bg IVg						98.70~99.14m: 傾斜30°と70°の割れ目が2~5cm間隔で発達する。割れ目はやや多いが硬い。																		
				淡黄	Vg						99.14~100.88m: 傾斜10~30°の低角割れ目が発達し、多くが脆弱で割れ目沿いに細粒・細片化している。															150	0.2	泥水10	10
				明褐灰	IVg						102.07m: 傾斜50°の割れ目沿いに暗青灰色の変質鉱物が幅20mmで分布する。白雲母を伴う。																		
				明褐灰	Bg IIIg						103.45~104.59m: 硬質で、棒状コアを呈する。岩芯に新鮮部が残存するが、斑状の褐色化を伴う。																		
				アブライト	IVg						104.59~105.27m: 微細な密着割れ目が発達し、上位に比べやや軟質である。																		
				アブライト	Bg IIIg						105.27~108.05m: 大半の割れ目と割れ目沿いが褐色化している。															120	0.2	泥水15	14
				灰白	Bg IVg						107.25m: 傾斜60°, 幅2mm. 灰白色の粘土を挟む。																		
				灰白	Dg IVg						107.60m: 傾斜65°, 幅2mm. 灰白色の粘土を呈する。下壁側に暗青灰色の変質鉱物帯が幅10mmで分布する。																		
				明褐灰	Bg IIIg						108.05~110.36m: 傾斜60°の割れ目が主で風化で褐色化している。																		
				明褐灰	IIIg						108.76~109.04m: 割れ目沿いに淡緑青色の鉱物が分布する。																		
				褐灰	Bg IVg						110.64~110.93m: 割れ目が多くなり、僅かに細片化部を含むが硬質である。																		
				明褐灰	IIIg						110.93~111.68m: 割れ目が少なく硬質部が主となる。有色鉱物の周囲が風化で斑点状に褐色化している。																		
				明褐灰	IVg						111.68~112.39m: 縦方向の割れ目沿い幅10mm程度が風化・褐色化している。マンガンも伴う。															150			
				明褐灰	Bg IIIg						113.15~113.46m. 114.18~115.43m: 割れ目が多い。割れ目は風化・褐色化し、岩芯は斑状に褐色化している。																		
				灰白	Dg Vg						115.43~116.16m: 上端の傾斜が55°, 下端の傾斜が70°の固結した角礫状を呈する。上端に2~3mmの灰白色の粘土を伴う。116.00m以浅はわずかに粘土を伴い、以深は粘土化が進む。																0.2	泥水15	14
				灰白	Cg						117.18~117.89m: 割れ目沿いに細粒・細片化している。有色鉱物の周囲はすべて褐色化している。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																	
120	84.19	123.51	[Pattern]	アプライト	灰白	Vg	cg	γ	2		117.89~118.60m: 上端の傾斜が70°、下端の傾斜が80°の角礫混じり砂質粘土状を呈する。淡赤白色の軟質な熱水変質脈で、花崗斑岩の岩片が取り込まれる。	4 [0]	CL'							9/17	93	86 / セメントインプ		20.0									
																													明赤灰	Vg	dg	δ	4
					灰白	Vg	cg	γ	3	119.92~120.11m: 傾斜60°の割れ目が主で、割れ目沿いに細粒化、風化・褐色化している。	6 [0]	CL'																					
																													Bg	IIIg			2
					Cg	IVg			2	122.12~122.53m: 粘土混じり角礫状を呈する。上端に傾斜70°、幅1~4mm、灰白色の砂混じり粘土を伴う。	8 [0]	CL'																					
																													Dg	IVg			2
					Cg	IVg			3	122.74m: 傾斜70°、幅5mmの褐色~灰白色の粘土を伴う。	10 [0]	CL'																					
																													Dg	IVg			3
					Eg	VIg	dg	δ	3	123.51~150.00m: 花崗斑岩である。123.70~125.39m: 割れ目間隔10~20cmで割れ目は少なく硬質である。	12 [12]	CM'																					
																													Bg	IIIg			2
					Cg	IVg			3	127.52~128.68m: 傾斜30~60°の割れ目が5~10cm間隔で分布する。	14 [15]	CL'																					
																													Dg	IVg			2
Eg	VIg	dg	δ	3	130.18~131.32m: 一部の密集部を除き、割れ目はやや少ない。マンガン汚染を受ける。	16 [14]	CL'																										
																												Bg	IIIg			2	131.32~131.85m: 変質による黄褐色鉱物が分布する。
Cg	IVg			2	132.11m, 132.16m: 傾斜40°、幅3mm及L2~8mmの石英脈である。周縁はマンガンが濃集する。	18 [18]	CM'																										
																												Dg	IVg			2	133.92~135.65m: 一部を除き割れ目は少ない。傾斜40~60°の割れ目が10~15cm間隔で分布する。
Eg	VIg	dg	δ	3	134.24~134.29m: 上端の傾斜60°、下端の傾斜55°、変質で橙色を帯び細粒化している。	20 [13]	CL'																										
																												Bg	IIIg			2	134.51~134.90m: 割れ目が多いものが主となる。岩片化している。
Cg	IVg			2	136.01~136.19m: 上下位に比べ軟質で岩片化している。	22 [13]	CL'																										
																											Dg	IVg			2	136.90~138.45m: 割れ目は少なく硬質である。傾斜30~60°の割れ目が主となる。	23 [14]
Eg	VIg	dg	δ	3	138.45~139.20m: 割れ目はやや多い。傾斜40°程度の割れ目が主でマンガン汚染と褐色の細粒物質を伴う。	24 [15]	CL'																										
																											Bg	IIIg			2	139.20~139.70m: 傾斜45~65°の割れ目に沿って幅20~30cmの灰白色の変質部を伴う。	25 [13]
Cg	IVg			2	140.93~141.40m: 割れ目が多い。傾斜40~50°の割れ目が主で細片化~細粒化している。	26 [16]	CL'																										
																											Dg	IVg			2	141.40~142.18m: 割れ目が少なく硬質である。	27 [13]

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアカ形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コアカ長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)												
		20	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	18.50~18.61m: 砂状化し、軟質である。	9	CL'						8/2	115 / ケーシング								
				明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	19.00~22.11m: 傾斜10~30'の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、コアは角礫状~岩片状化している。	9	CL'															
				にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	3	20.36~20.49m: やや硬質で、割れ目は褐色で密着している。	9	CL'															
				明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	21.00~21.16m: やや硬質で、割れ目が発達する。	9	CL'															
				明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	●21.63~22.57m: 破砕帯 (D-15) 破砕幅は57.9cmである。にぶい橙色の割れ目の密集部からなる。	13	CL'															
				明褐灰	Bg	Vg	cg	γ	2	23.35~23.87m: 非常に硬質である。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する。	26	CM															
				明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	24.10~24.70m: 網状に割れ目が発達する。所々に褐色の粘土を挟入する。	11	CL'															
				にぶい橙	Dg	Vg	cg	γ	2	25.32~25.75m: 軟質である。割れ目が多く、傾斜70'の割れ目が約1cm間隔で発達する。割れ目は黒色で、一部砂状化している。	9	CL'															
				にぶい橙	Bg	Vg	cg	γ	2	26.00~26.46m: 割れ目は少なく、非常に硬質である。	14	CL'															
				にぶい橙	Dg	Vg	cg	γ	2	27.47~27.70m: 一部、割れ目に沿って軟質化している。	17	CL'															
				浅橙	Dg	Vg	cg	δ	3	28.63~29.22m: 割れ目が多く角礫状化している。	8	CL'															
		30		淡赤橙	Dg	Vg	cg	γ	2	29.22~29.80m: 割れ目はやや多いが硬質である。	15	CL'															
				明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	31.57~32.33m: 割れ目間隔は1~5cmで、岩片状コアが主となる。ハンマー打診で金属音を発する。	37	CL'															
				明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	33.41~34.13m: 割れ目が多い、角礫~岩片状を呈する。軟質である。	10	CL'															
			にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	34.82~35.75m: 割れ目沿いにマサ化している。	3	CL'																
			明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	36.14~36.21m: 角礫混じり砂状を呈する。下端に薄く褐色の粘土を伴う。	22	CH																
			浅黄橙	Dg	Vg	cg	δ	3	36.21~37.70m: 割れ目は傾斜20~30'の低角度が主となる。割れ目沿いは褐色化・細粒化している。	3	CL'																
			明褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	●37.86~37.91m: 破砕帯 (D-29) 破砕幅は4.0cmである。37.86~37.87m: 灰白色の未固結の粘土状部からなり、幅は0.2cmである。上端境界の傾斜は30'である。	16	CH																
			褐灰	Bg	Vg	cg	γ	2	37.97~37.91m: 角礫混じり砂状を呈し、褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は35'である。	15	CH																
			明赤灰	Dg	Vg	cg	δ	3	37.91~42.62m: 部分的に割れ目が多く軟質である。	5	CL'																
			褐灰	Dg	Vg	cg	γ	2	●42.62~42.88m: 破砕帯 (f-b14-1-2) 破砕幅は18.4cmである。42.62~42.82m: 粘土混じり角礫状を呈し、灰白色の固結した礫状部からなる。上端、下端境界の傾斜はともに45'である。若組織は消滅する。	17	CL'																
			褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3	42.82~42.88m: 灰白色の砂混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は5.5cmである。下端境界の傾斜は45'である。	16	CL'																
		40	灰褐	Dg	Vg	cg	δ	3		17	CL'																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色硬	コアラ形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値 ~ 深度) 図		孔内水位 (m) / 測定日	試験		原位置試験 (孔内水平盤)	室内試験	掘進速度 (cm / 時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)															
													標準貫入	試験		送水	排水																									
50			+ +	花崗斑岩	灰褐色	Dg Vg	cg	δ	2	●43.19~43.62m: 破碎帯(D-30) 破碎幅は31.4cmである。 43.19~43.20m: 黒褐色の粘土混じり角礫状を呈し、未固結の粘土状部からなり、幅は0.3cmである。上端境界の傾斜は42°である。 43.20~43.62m: 粘土混じり砂状を呈し、褐灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は30°である。 46.02~46.49m: 傾斜40~50°の割れ目が1~2cm間隔で網状に発達する。割れ目沿いに劣化する。 48.36~48.44m: 細粒花崗斑岩である。径1mm以下の微晶で構成されている。 48.82~48.85m: 幅25~40mm、灰白色の粘土混じり砂礫状に変質している。 50.24~50.60m: 白色の粘土が不規則に分布する。 51.30~52.70m: 上端の傾斜50°、下端の傾斜65°、割れ目が少なく非常に硬質である。ハンマー打撃で澄んだ金属音を発する。 54.79~56.36m: 概ね新鮮で非常に硬質である。 57.65~58.50m: 割れ目が多く、角礫状~岩片化している。一部淡黄灰色の粘土を伴う。 58.50~58.91m: 割れ目が密集する。赤色を帯びる。 60.90m: 傾斜45°、幅15~20mmのマンガン脈である。小岩片を取り込む。 ●61.09~61.22m: 破碎帯(M) 破碎幅は8.7cmである。 61.09~61.20m: 角礫状を呈し、褐灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は48°である。 61.20~61.22m: 褐灰色の割れ目の密集部からなる。下端境界の傾斜は70°である。 63.88~63.97m: 硬質で割れ目沿いに暗青灰色化している。 63.97~65.87m: 傾斜80~90°の高角度割れ目と、傾斜10~30°の低角度割れ目が交差し岩片化している。割れ目が褐色化している。 66.61~67.06m: 割れ目は多く細粒化している。傾斜40°前後の割れ目が主となる。	3 (0)	CL'																														
					褐色	Dg Vg	cg	δ	3						9 (0)	CL'																										
					褐色	Dg Vg	cg	δ	2						9 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	2						9 (0)	CL'																										
					明赤灰	Dg Vg	cg	δ	2						9 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3						12 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	2						12 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	2						12 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	2						12 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	2						12 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	2						12 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	2						12 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	2						12 (0)	CL'																										
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	2						12 (0)	CL'																										
60			+ +	花崗斑岩	明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
					明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																	
明褐色	Dg Vg	cg	δ	3																																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															(N)	値															
				花崗斑岩	褐灰	Cg IVg	cg			2	93.10m, 93.22m: 割れ目沿いに幅10~15mm, 径5~10mmに細片化している。	CL'								125											
				花崗斑岩	明褐灰	Bg IIIg	bg			2	95.27~95.56m: 割れ目が多い。傾斜25~55°の割れ目が主となる。風化で軟化している。	CH'									8/23										
				花崗斑岩	明褐灰	Cg IVg	cg			2	97.54~97.86m: 幅1~2mmの白色のシルト脈が不規則に分布する。	CL'																			
				花崗斑岩	明褐灰	Dg Vg	dg			3	99.80~101.74m: 割れ目が多いが、未風化・新鮮で硬質である。 100.10m: 傾斜55°, 幅3~5mm, 緑灰色のシルトを挟在する。 100.27m: 傾斜70°, 幅2~8mm, 緑灰色のシルトを挟在する。	CM'																			
				花崗斑岩	明褐灰	Cg IVg	cg			2	100.77~100.81m: 上下端の傾斜が40°の割れ目に囲まれて、幅10~40mmの粘土化が進む。 101.17~101.23m: 径5~10mmに角礫化している。	CL'																			
				花崗斑岩	明褐灰	Dg Vg	dg			2	101.74~150.00m: アブライトである。																				
				花崗斑岩	明褐灰	Dg Vg	dg			2	101.74m: 割れ目が密集する。傾斜は60°である。																				
				花崗斑岩	明褐灰	IIg				2	102.54~103.09m: 割れ目が密集し脆弱である。傾斜20~40°と70~90°の割れ目が発達する。	CM'																			
				花崗斑岩	明褐灰	IIIg				2	104.82~104.88m: 幅2~5mmの石英脈である。																				
				花崗斑岩	明褐灰	IVg				2	106.22~109.06m: 硬質で割れ目が少ない。	CH'																			
				花崗斑岩	明褐灰	Bg IIIg	bg			2	109.06~109.66m: 割れ目はやや多い。傾斜10~20°割れ目が主となる。																				
				花崗斑岩	明褐灰	Cg IVg	cg			2	109.66~109.90m: 傾斜65~70°の微細な割れ目が0.5~1cm間隔と密に分布する。一部でマンガンが付着している。																				
				花崗斑岩	明褐灰	Bg IIIg	bg			2	110.69m: 割れ目沿いに黄鉄鉱が晶出している。																				
				花崗斑岩	明褐灰	Cg IVg	cg			2	111.55~112.50m: 割れ目少なく、非常に硬質である。ほぼ未風化している。																				
				花崗斑岩	明褐灰	Bg IIIg	bg			2	113.31~113.69m: 角礫~岩片状を呈する。																				
				花崗斑岩	明褐灰	Cg IVg	cg			2	115.67~115.73m: 傾斜45°程度の微細な割れ目が発達し、弱く変質している。細礫状~土砂状を呈する。	CL'																			
				花崗斑岩	明褐灰	Dg Vg	dg			2	117.61~117.87m: 割れ目が交差し、岩片状~細礫状を呈する。																				
				花崗斑岩	明褐灰	Cg IVg	cg			2	118.08~118.14m: 割れ目に暗緑色鉱物が付着し、割れ目沿いに変質している。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁保護	コアチューブ ノズル	給 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)								
														(N) 値	(N) 値	(N) 値	(N) 値	(N) 値																		
		120		褐灰					γ β	119.05m: 傾斜45°, 幅2~3mm. 黒色の砂混じり粘土を挟在する。 119.05~119.35m: 弱い変質を受けやや軟化している。 119.35m: 傾斜60°, 幅1~2mm. 黒色の粘土を挟在する。	0 10 20 30 40 50																									
				にぶい橙						122.58~124.33m: 傾斜約60°の割れ目が発達する。岩片状~細礫状が主となる。 124.33~124.77m: 縦方向の割れ目沿いに幅10mm程度で変質している。暗緑色~淡緑色の鉱物や黄鉄鉱が晶出している。 124.95~125.08m: 傾斜65°の割れ目沿いに淡緑色の鉱物が晶出している。 125.23~128.25m: 傾斜10~30°の低角度割れ目と90~75°の高角度割れ目が交差し角礫状化している。	0 10 20 30 40 50																									
		130		アブライト					cg β	129.50~129.53m: 傾斜60°, 幅20mmでやや軟化している。径10~20mm角礫や暗緑色の細脈が分布する。下端の傾斜60°の割れ目にマンガンが付着する。 129.74~131.10m: 割れ目の一部に幅1~2mmの暗緑色の変質鉱物を伴う。 131.10~132.03m: 割れ目沿いに径1~2mmの暗緑色変質鉱物や径1mm以下の黄鉄鉱が晶出している。 132.03~132.08m: 割れ目多くハンマーの軽打で細岩片化している。 ●133.38~134.77m: 破砕部 破砕幅は40.6cmである。 133.38~133.40m: 淡緑灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部かなり、幅は1.2cmである。傾斜は73°である。 133.40~134.77m: 粘土混じり角礫状を呈し、淡緑灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は75°である。133.64m以浅は、径10~10mmの硬質な礫を50%以上含む。133.64m以深は、幅1~5mmの軟弱な白色の粘土が網目状に分布する。	0 10 20 30 40 50																									
				灰赤						134.77~135.24m: 変質と破砕劣化部である。不規則で細かい割れ目が分布する。	0 10 20 30 40 50																									
				灰褐						135.24m: 傾斜40°, 幅6~12mm. 暗緑色の変質脈である。 135.24~138.72m: 大半が径10~30mmの角礫~岩片状を呈する。	0 10 20 30 40 50																									
				灰赤						138.72~140.61m: 微細な割れ目が1cm前後の間隔で発達し軟質である。	0 10 20 30 40 50																									
		140		赤灰						141.13~143.34m: 割れ目の間隔は1cm未満である。一部で網目状に暗緑灰色の鉱物脈が分布する。	0 10 20 30 40 50																									
				灰褐						141.50~141.70m: 暗緑灰色の鉱物が濃集する。岩組織は消滅する。	0 10 20 30 40 50																									
				灰赤							0 10 20 30 40 50																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平断) 図	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
															0 10 20 30 40 50	(N) 値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
20			+	花崗斑岩		灰白	Dg	dg	γ	4		18.68~19.89m: 変質が著しく、割れ目、岩組織はほとんど残留しない。 19.89~20.29m: 微細な割れ目が0.2~1cm間隔で網目状に発達する。幅0~1mmの粘土を伴う。硬質である。 20.29~20.90m: 風化・変質の影響が弱くなる。 21.20~22.39m: 傾斜60°の割れ目が多く角礫状化している。硬質である。 22.34~22.50m: 傾斜70°、幅8~10mm、黄灰色~黒色の変質粘土脈である。 23.71~23.85m: 傾斜約85°の縦方向の割れ目が発達する。 24.48~25.88m: 径5~30mm礫状~片状化している。 25.88~26.62m: 土砂~礫状を呈する。岩片は径5~15mm、最大50mm程度である。岩片間はシルト混じり中粗砂様で、軟質で指圧で変形する。 26.62~27.62m: 割れ目が多い。0.5~1.5cm間隔で網状に発達する。 28.21~28.50m: 微細な割れ目が0.2~1cm間隔で発達し、脆弱である。 ●28.50~28.66m: 破砕帯 (f-b14-2-1) 破砕幅は10.3cmである。28.50~28.51m: にふい黄褐色の砂混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.1cmである。上端境界の傾斜は50°である。 28.51~28.66m: 粘土混じり角礫状を呈し、にふい黄褐色の固結した礫状部からなる。粘土の細脈が分布する。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で分布する。一部で割れ目沿いに岩組織が不明瞭である。 30.21~32.40m: 割れ目はやや多い。傾斜40~50°割れ目が主となる。 32.40~32.67m: 不規則な割れ目が1~3cm間隔で発達。片状を呈する。 33.01~35.14m: 非常に硬質であるが割れ目がやや多一部で片状化している。 34.77m: 傾斜60°、幅5~12mm、黄褐色~灰白色の粘土脈である。 35.14~35.74m: 風化・変質で割れ目が不規則で網状に発達する。 36.43~37.52m: 傾斜50°の割れ目と不規則な割れ目が分布する。角礫~片状を呈する。 37.52~37.89m: 角礫状~岩片状を呈する。 ●38.10~38.27m: 破砕帯 (f-b14-2-2) 破砕幅は13.0cmである。角礫混じり砂状を呈し、淡黄白色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°、下端境界の傾斜は50°である。 38.67~39.21m: 割れ目、岩組織が不明瞭である。角礫岩様で白色~淡赤白色の粘土が不規則に分布する。 39.21~41.29m: 傾斜30~50°と不規則な割れ目が分布し、薄く白色~黄褐色のシルトを挟む。 40.25~40.31m: 上端の傾斜40°、下端の傾斜50°、幅5cm程度、灰白色の粘土混じり砂状を呈する。 41.65~41.74m: 割れ目が密集する。 42.13~42.71m: 強く風化変質し軟化している。	0 50 100	D'	8/1	80	115 / ケーシング						▽ 31.10 ▽ 31.12 ▽ 31.14 ▽ 31.16 ▽ 31.18 ▽ 31.20 ▽ 31.22 ▽ 31.24 ▽ 31.26 ▽ 31.28																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
																																						30			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		CL'	8/2	60	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
																																																																		40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	2		D'	8/3	70	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
																																																																																														40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/4	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
																																																																																																																										40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	2		D'	8/5	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
																																																																																																																																																					40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/6	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																																																																																																																																																																		
																																																																																																																																																																																40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/7	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																																																																																																																																							
																																																																																																																																																																																																											40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/8	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																																																																																																												
																																																																																																																																																																																																																																					40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/9	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																																																																																		
																																																																																																																																																																																																																																																															40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/10	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																																																								
																																																																																																																																																																																																																																																																																									40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/11	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																																														
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/12	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																																																					
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/13	50	ダブルコア / ケーシング																																																																																													
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/14	50	ダブルコア / ケーシング																																																																						
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/15	50	ダブルコア / ケーシング																																															
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/16	50	ダブルコア / ケーシング																									
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			40			+	花崗斑岩		明褐	Dg	dg	γ	3		D'	8/17	50	ダブルコア / ケーシング				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平剪断)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
													(N)	値																
				花崗斑岩	灰黄褐 Dg IVg cg Cg IIIg dg Eg IVg dg					43.51~43.81m: 強く風化変質し軟化している。上端の傾斜が50°の割れ目に砂混じりシルトを挟在する。幅5~10mm。 44.63~45.20m: 強く風化変質し角礫状~岩片状を呈する。 45.90~47.37m: 割れ目が多い。間隔1~3cmで網状に割れ目が発達する。 ●47.37~47.40m: 破砕部 破砕幅は2.3cmである。 47.37~47.39m: 褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°である。 47.39~47.40m: 灰白色の未固結の粘土状部からなり、幅は1.0cmである。 47.40~49.24m: シルト混じり砂礫状を呈する。網状に粘土~シルトが分布する。 ●49.24~49.55m: 破砕部 (D-44) 破砕幅は25.4cmである。 49.24~49.27m: 灰色の砂混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は2.5cmである。上端境界の傾斜は20°、下端境界の傾斜は35°である。 49.27~49.55m: 粘土混じり砂状を呈し、緑灰色の固結した礫状部からなる。上端、下端境界の傾斜はともに35°である。 50.50~51.43m: コア欠	CL' CM' CL' CL' CL'																			
				花崗斑岩	褐灰 Dg Vg cg Cg IVg cg Eg Vg dg Dg Vg cg Eg Vg cg Dg Vg cg Eg Vg dg Cg IVg cg Dg Vg cg					52.92~53.33m: 強く風化変質し岩組織は不明瞭である。 53.33~53.35m: 土砂状を呈する。灰白色の粘土を伴い軟質である。 55.40~55.84m: 割れ目が密集する。全体に赤色を帯びる。 57.42~57.68m: 変質作用により岩盤が劣化し軟質である。長石類の大半は緑色鉱物に変質している。 59.55~60.85m: 割れ目沿いに細片化し、緑色鉱物脈を挟在する。 60.65~150.00m: アブライトである。 ●60.85~61.12m: 破砕部 (D-42) 破砕幅は19.7cmである。 60.85~61.11m: 褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°である。岩組織は残留する。硬質である。 61.11~61.12m: 緑灰色の固結した粘土状部からなる。下端境界の傾斜は50°である。 62.97~63.09m: 割れ目が密集し脆弱である。下端に傾斜45°、幅1~2mmで緑白色の粘土が挟在する。 64.92~65.32m: 傾斜30~45°および70°程度の割れ目が発達する。片状を呈する。 65.32m: 傾斜45°、幅5mm以下、灰白色の砂混じり粘土脈である。 65.32~65.86m: 風化・変質でコアは脆弱化している。 67.38~67.51m: 上端の傾斜35°、下端の傾斜20°で風化・変質で軟質化し脱色している。 68.23~68.63m: 風化・変質著しく、岩組織と割れ目が不明瞭である。68.33mまでは網目状に粘土脈が分布し、以深は土砂状化している。	CL' CM' CL' CL' CL' CM' CL' CM' CL'																			
				花崗斑岩	明赤灰 Dg Vg cg Cg IVg cg Eg Vg dg Dg Vg cg Eg Vg cg Dg Vg cg Eg Vg dg Cg IVg cg Dg Vg cg					50.50~51.43m: コア欠																				
				花崗斑岩	明赤灰 Dg Vg cg Cg IVg cg Eg Vg dg Dg Vg cg Eg Vg cg Dg Vg cg Eg Vg dg Cg IVg cg Dg Vg cg					50.50~51.43m: コア欠																				
				アブライト	褐灰 Dg Vg cg Cg IVg cg Eg Vg dg Dg Vg cg Eg Vg cg Dg Vg cg Eg Vg dg Cg IVg cg Dg Vg cg					60.65~150.00m: アブライトである。 ●60.85~61.12m: 破砕部 (D-42) 破砕幅は19.7cmである。 60.85~61.11m: 褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40°である。岩組織は残留する。硬質である。 61.11~61.12m: 緑灰色の固結した粘土状部からなる。下端境界の傾斜は50°である。 62.97~63.09m: 割れ目が密集し脆弱である。下端に傾斜45°、幅1~2mmで緑白色の粘土が挟在する。 64.92~65.32m: 傾斜30~45°および70°程度の割れ目が発達する。片状を呈する。 65.32m: 傾斜45°、幅5mm以下、灰白色の砂混じり粘土脈である。 65.32~65.86m: 風化・変質でコアは脆弱化している。 67.38~67.51m: 上端の傾斜35°、下端の傾斜20°で風化・変質で軟質化し脱色している。 68.23~68.63m: 風化・変質著しく、岩組織と割れ目が不明瞭である。68.33mまでは網目状に粘土脈が分布し、以深は土砂状化している。	CL' CM' CL' CL' CL' CM' CL' CM' CL'																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
														(N)	(m)												
		70		黄灰	CG	IV	cg	2		68.63~70.03m: 割れ目の一部に幅0.3~1mmで暗オリーブ灰色の硬質粘土を挟する。																	
				褐灰	Dg	IV	dg	3																			
				褐灰	Dg	V	cg	3		70.03~70.33m: 割れ目が密集し岩片~細片化している。岩組織は不明瞭である。全体に粘土の細脈が分布する。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	2		70.88~71.05m: 著しく軟化している。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	2		72.14m: 砂混じりシルトを挟する。傾斜40°、幅1~2mm、灰色~緑灰色の白雲母が混入する。																	
				明褐灰	Bg	III	bg	2																			
				明褐灰	Bg	III	bg	3																			
				明褐灰	Bg	IV	cg	3		73.74~77.91m: 割れ目の多寡を繰り返す。非常に硬質で未風化部が主となる。																	
				明褐灰	Bg	IV	cg	2																			
				明褐灰	Bg	IV	cg	2																			
				灰白	Bg	III	bg	2		77.38m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出し濃集する。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		78.25~79.14m: 割れ目はやや多いが、非常に硬質なものが多い。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		79.42m: 傾斜20°、幅5~10mmの石英脈である。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		79.77~79.79m: 傾斜40°の割れ目に幅8~10mm、灰白色~暗褐色のシルト質砂を挟する。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				灰白	Bg	III	bg	2																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		82.13~83.59m: 割れ目は緑白色~オリーブ灰色である。白雲母や黄鉄鉱が付着している。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		83.59~83.88m: 傾斜30~50°の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角度割れ目が分布する。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		83.88~84.54m: 割れ目少なく、非常に硬質が主となる。傾斜45°が主となる。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		84.54~85.14m: 割れ目が多く細片~細粒化している。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		85.06~89.74m: 大半は割れ目少なく、非常に硬質である。傾斜30~40°の割れ目が主となる。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		87.61~88.31m: 割れ目沿いに脱色している。割れ目はオリーブ灰色を帯びる。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		87.73m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出している。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		88.22m: 傾斜43°の割れ目は暗オリーブ灰色化し、柱状の石英を晶出している。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		90.08~90.56m: 中角度の割れ目が発達し、岩片~角礫状を呈する。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		91.08~91.13m: 割れ目が密集する。実質、コアは細粒状を呈する。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		91.13m: 傾斜40°の割れ目沿いに黄鉄鉱が晶出。																	
				明褐灰	Dg	IV	cg	3																			
				明褐灰	Dg	IV	cg	3		92.63~93.58m: 割れ目間隔が10cm以上で、コアは柱状を呈する。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験				原位置試験 (孔内水平盤)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアラチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
														0	10	20	30																
		100		褐灰	Bg IVg	β	2	94.00~94.63m: 低~中角度の割れ目が発達する。岩片~角礫状を呈する。 94.24m: 割れ目に、傾斜45°、幅1~2mmの灰白色の砂質粘土を挟在する。	2	95.07~96.03m: 中角度の割れ目が多く岩片~角礫状を呈する。	96.38~96.97m: 中角度割れ目や微細な割れ目が発達し、コアは角礫状を呈する。	明褐灰 Dg IVg Cg IVg Bg IIIg Cg Vg Bg IVg	CM'			9.28	120																
		110		明褐灰	Dg IVg Cg Vg Bg IVg	γ	3	98.28~100.40m: 不規則な割れ目が発達する。岩片~角礫状を呈する。	2	100.40~101.03m: 細かい割れ目が発達する。一部は変質も受けや軟質化している。角礫~土砂状化している。	●101.47~101.52m: 破砕帯 (f-b14-2-6) 破砕幅は4.5cmである。 灰白色の固結した礫状部からなる。傾斜は25°である。	明褐灰 Dg IVg Cg Vg Bg IVg	CM'			8/27	100																
				褐灰	Dg IVg Cg Vg Bg IVg	β	3	102.55~102.94m: 中角度の割れ目が多く、岩片~角礫状を呈する。	2	102.94~103.11m: 礫~土砂状化している。一部に灰白色の粘土脈が分布する。	●105.54~105.61m: 破砕帯 (D-41) 破砕幅は4.9cmである。 シルト混じり砂礫状を呈し、緑灰色の固結した礫状部からなる。上端、下端境界の傾斜はともに45°である。灰白色の粘土脈が分布する。	明褐灰 Dg IVg Cg Vg Bg IVg	CM'				76 / 送水	100															
				明褐灰	Dg IVg Cg Vg Bg IVg	β	3	106.48~106.49m: 傾斜15°と50°の割れ目に粘土質砂が挟在する。幅3~6mm。暗緑灰色。	2	106.78~106.80m: 傾斜50°、暗緑灰色の粘土質砂礫状を呈する。	107.29~107.45m: 砂~細礫状を呈する。灰白色の粘土脈が網目状に分布する。 107.30m: 傾斜55°、幅3~9mm、暗灰色の砂質粘土を挟在する。黄鉄鉱を伴う。	●109.16~109.46m: 破砕帯 (D-1) 破砕幅は7.8cmである。 109.16~109.19m: 明緑灰色の砂混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は2.2cmである。傾斜は75°である。 109.19~109.30m: 粘土質砂礫状を呈し、明緑灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は75°である。 109.30~109.32m: 明緑灰色の砂質粘土状を呈し、固結した粘土状部からなる。 109.32~109.46m: 角礫状を呈し、明緑灰色の固結した礫状部からなる。傾斜は80°である。下端に幅1mmの白色の粘土を伴う。	明褐灰 Dg IVg Cg Vg Bg IVg	CM'				8/28	105														
				明緑灰	Dg IVg Cg Vg Bg IVg	β	3	109.46~112.49m: 中角度の割れ目が多く、岩片~細礫状を呈する。	2	110.95~111.16m: 変質が著しく暗緑灰色化している。白色の粘土細脈が網目状に分布する。 111.80m: 傾斜45°、幅4~6mm、暗灰色の砂混じり粘土を挟在する。 114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~角礫状を呈する。 116.04m: 傾斜45°の割れ目に幅1~2mmの淡灰色の粘土を挟在する。	116.33~117.37m: 割れ目はやや多いが、ほぼ未風化で非常に硬質である。	明褐灰 Dg IVg Cg Vg Bg IVg	CM'																				
				明褐灰	Dg IVg Cg Vg Bg IVg	β	3	117.58m: 傾斜45°の割れ目に幅2~4mmの暗緑灰色の細粒物質を挟在している。黄鉄鉱、緑泥石、石英が晶出している。周縁が幅20mm程度淡緑色化している。	2			明褐灰 Dg IVg Cg Vg Bg IVg	CM'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ピット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
													(N値~深度) 図																			
		120	[Pattern]	アブライト	褐灰	Bg	β		120.30~122.00m: 傾斜10~40°と60~80°の割れ目が交差する。径1~3cmに岩片化している。	0 50 100																						
		122.18~122.40m: 傾斜55~60°の割れ目沿いに一部軟化している。																														
		123.39m: 割れ目が密集する。下端に1mm未満の暗緑色の粘土や鏡肌が分布する。																														
		124.89~129.41m: 脱色・白色化した密着割れ目を含み、分離・細片化している。																														
		125.65m: 傾斜30°の割れ目面周縁幅2~3cmが変質で暗緑色化している。幅0.5mmの暗緑色の粘土を挟在する。割れ目が多く、岩片状化している。傾斜35°と60~70°の割れ目が主となる。																														
		129.79~131.00m: 傾斜35~45°と10~40°の割れ目が交錯し、径10~30mmの岩片状を呈する。																														
		130.50~130.54m: 傾斜45°の割れ目沿いに暗緑色化する。幅1~3mmの石英脈を伴う。																														
		131.00~132.00m: コア欠																														
		132.00~133.00m: 割れ目と微細な割れ目が10~30mm間隔で密に分布する。径10~30mmに岩片化している。																														
		133.57~134.00m: 長さ5mm程度で扁平に細粒化している。硬質である。																														
		134.00~135.00m: コア欠																														
		135.00~135.50m: 割れ目が多い。岩片状を呈し、硬質である。																														
		135.50~136.00m, 136.50~136.75m: コア欠																														
		136.75~137.08m: 径10~20mmの岩片状を呈する。																														
		137.67~137.73m: 傾斜45~50°の割れ目沿いに径10mm程度に角礫状化している。暗緑色の粘土が挟在する。																														
		138.21~138.42m: 暗緑色の鉱物が付着している。																														
		138.42~140.04m: 割れ目が多い。硬質である。																														
		140.04~140.33m: 割れ目が密集し、細片~細粒化している。一部硬質部が残るが上下位に比べ軟質である。																														
		141.71~142.00m: 大半の割れ目沿いで細片~細粒化し軟質である。																														
		142.48~143.53m: 割れ目沿いが細片~細粒化している。																														
		130	[Pattern]	アブライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	CL'																					
		85.57																														131.00
		130	[Pattern]	アブライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	CL'																					
		86.28																														132.00
		130	[Pattern]	アブライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	CL'																					
		87.69																														134.00
		130	[Pattern]	アブライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	CL'																					
		88.40																														135.00
		130	[Pattern]	アブライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	CL'																					
		88.75																														135.50
		130	[Pattern]	アブライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	D'																					
		89.11																														136.00
		130	[Pattern]	アブライト	灰褐	Dg	Vg	dg	β	3																						
		89.46																														136.50
		130	[Pattern]	アブライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	CL'																					
		89.64																														136.75
		140	[Pattern]	アブライト	灰褐	Cg	Vg	cg	β	2	CL'																					
		136.75																														137.08
		137.67																														137.73
		138.21																														138.42
		140	[Pattern]	アブライト	赤灰	Dg	Vg	dg	β	3																						
		140.04																														140.33
		140	[Pattern]	アブライト	赤灰	Dg	Vg	dg	β	2	CL'																					
		141.71																														142.00
		140	[Pattern]	アブライト	赤灰	Cg	Vg	cg	β	2	CL'																					
		142.48																														143.53

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													0	10	20	30	40												50
	99.01	150.00	* * * * *	アプライト	赤灰	Vg			143.53~145.46m: 割れ目はやや多いが、ほぼ未風化で新鮮である。	8 (8)							9/14	118		ダブルコチチップ / タイヤモンモリロナイト	2.0	100	0.1	泥水?	0				
					灰	Vg			145.46~150.00m: 割れ目が多く、割れ目の沿い一部は細片化している。	11 (11)								9/15	85										
						Cg			146.90m: 割れ目沿いの変質で周縁幅3cmが暗緑色化している。	10 (10)																			
						IVg		cg	β	2	147.13m: 割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い周縁は暗緑色を帯びる。下端側幅6~7cmが脱色している。	9 (9)																	
						赤灰	Vg			149.80~149.85m: 傾斜40°, 幅40mm、暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴う。	8 (8)																		
					Dg					9 (9)																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
														(N)	(値)																						
		20	花崗斑岩	にぶい黄橙	Vg	Dg	IVg	cg	δ	17.44m: 割れ目沿いに幅10~40mmで砂状化している。	18.31m: 幅10mmで黒褐色のマンガが脈状に分布する。	19.60m: 割れ目沿いに、幅10mmが砂状化している。	21.16~22.01m: 割れ目沿いに、一部幅10~30mmで砂状化している。	22.01~22.19m: 軟質部中に中硬質な岩片が残留する。	23.05~23.80m: 割れ目の交差部で一部細片状を呈する。	24.44~24.71m: 土砂状を呈する。岩組織と割れ目がほぼ消滅する。	26.00~26.62m: 割れ目沿いで砂状化が進む。	27.00~27.10m: コア欠 27.10~27.60m: 砂礫状を呈する。岩組織と割れ目がほぼ消滅する。	28.00~28.19m: コア欠 28.61~28.68m: コア欠 28.84~30.74m: 締まった砂礫状を呈する。30.00m以深は岩片量が多くなる。 29.00~29.09m: コア欠	30.30~30.53m: 石英の晶出が多い。			5/30	68	ダブルコアチーオンダイヤモンドビット	140 / ケーシング	10.0	100	0.1	泥水3	2						
		5/31								86	30.0	150	0.1	泥水5	3																						
		6/1								72						15.0	100	0.1	泥水3	2																	
		6/2								62											30.0	150	0.1	泥水3								3					
		6/2								73																							10.0	150	0.1	清水7	5
		6/3								82																											
		6/6		30	0.2	泥水3	3																														
		6/6		37																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進速度 (cm/時)	掘進 掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
															0	10	20	30	40												50													
				花崗斑岩	にぶい橙	IV _E	cg	δ	ε	3	63.61~64.00m: 礫状を呈する。傾斜60°、幅1~3mmの石英脈が2条認められる。 64.33~66.07m: 硬質であるが割れ目が多い。割れ目沿いに薄く砂状化している。 67.80~67.93m: 傾斜50~60°で割れ目沿いの砂状化部と径10mmの岩片で礫状を呈する。 ●69.70~69.73m: 破砕部 破砕幅は2.4cmである。 69.70~69.71m: にぶい黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.1cmである。傾斜は55°である。 69.71~69.73m: 粘土混じり礫状を呈し、灰黄色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は57°である。 69.73~74.10m: 軟質部と中硬質部が交互に分布する。 71.27~71.60m: 傾斜45~60°、幅1mm以下の軟質で灰白色~褐色の粘土脈が分布する。 71.88m: 傾斜0~10°、幅1mmの石英脈が密着して分布する。 ●74.36~74.50m: 破砕部 破砕幅は10.7cmである。 74.36~74.40m: 硬質粘土状を呈し、にぶい黄褐色の固結した砂状部からなる。上端境界の傾斜は27°である。 74.40~74.41m: 灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.7cmである。傾斜は30°である。 74.41~74.50m: 硬質粘土状を呈し、にぶい黄褐色の固結した砂状部からなる。 ●75.57~76.00m: 破砕部 破砕幅は32.1cmである。 75.57~75.71m: 粘土混じり礫状を呈し、灰褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は25°である。 75.71~75.73m: 灰褐色の硬混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.2cmである。傾斜は68°である。 75.73~76.00m: 硬質粘土状を呈し、灰褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は不明瞭である。 ●78.72~78.87m: 破砕部 破砕幅は13.1cmである。 78.72~78.73m: にぶい黄褐色の固結した砂状部からなる。上端境界の傾斜は31°である。 78.73~78.86m: 粘土混じり礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。 78.86~78.87m: 灰褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.2cmである。傾斜は60°である。		(N) 値 0 10 20 30 40 50																															
		47																																						30.0	150	0.2	泥水 ₄	4
		32																																						20.0	100	0.3	泥水 ₂	2
		28																																										
		95																																										
		47																																						30.0	150	0.2	泥水 ₄	4
		39																																						5.0	100	0.1	泥水 ₂	1
		46																																										
		27																																						40.0	150	0.2	泥水 ₄	4
		63																																										
		57																																										
		45																																						20.0	100	0.1	泥水 ₃	2
		40																																										
		46																																										
		51																																						40.0	150	0.1	泥水 ₄	4
		55																																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															(N)	(値)																	
			花崗斑岩	灰褐	Bg	IVg	bg	γ	2		110.74~112.83m: 傾斜30~60°とこれに直交~斜交する50~70°の割れ目が主体となる。割れ目交差部は岩片化している。	11	CM'																				
				にぶい橙	Cg							7																					
				灰褐	Dg	Vg	cg			3		●113.51~113.60m: 破碎部 破碎幅は8.3cmである。 113.51~113.56m: 粘土混じり礫状を呈し、灰褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は55°である。 113.56~113.57m: 灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.2cmである。傾斜は66°である。 113.57~113.58m: 粘土混じり礫状を呈し、灰褐色の固結した礫状部からなる。 113.58~113.60m: 灰褐色の固結した砂状部からなる。下端境界の傾斜は63°である。	4	CL'																			
				明褐灰	Eg	VIg	dg	δ		2			5	CL'																			
					Eg	VIg	dg	ε		3			3	D'																			
					Cg					2		114.50~114.75m: 低角度と高角度割れ目が交差し、概ね径30mm以下に岩片化している。	5																				
				にぶい褐	Dg	Vg	cg	δ		3		114.75~115.52m: 風化で大半が砂状化している。115.28m以深は割れ目の一部が残留している。	3	CL'																			
				にぶい橙	Eg							●118.94~119.12m: 破碎帯 (D-41) 破碎幅は15.1cmである。 118.94~119.10m: 砂混じり礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は30°である。 119.10~119.12m: 浅黄色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.5cmである。傾斜は60°である。	4	CM'																			
					Cg								2	CH'																			
				灰褐	IIIg							119.30~120.78m: 全体に割れ目が多く短柱状コアが主体となる。	5																				
					Bg	IVg	bg	β		2		123.38m: 割れ目が交差し幅2~3mmで細片化している。	8																				
					IVg							124.54m: 傾斜55°の割れ目に幅0.5mmで軟質な灰緑色の粘土がフィルム状に付着する。	5	CM'																			
				褐灰	Vg							125.06~125.28m: 割れ目治いに岩片状コアが主体となる。	8																				
					IVg								10																				

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ ノット	給 圧 (kN · r MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)			
														0	10	20	30	40												50		
		130		花崗斑岩	褐灰	IV _g	bg	γ	β	127.16~127.25m: 径10mm前後の短柱状コアが主体となる。	0							77						40.0	150	0.1	泥水 ₅	5				
					にふい 灰黄褐	V _g	cg	δ		127.68~128.08m: 径5~10mmの岩片状を呈する。	9							30						10.0	100	0.3	泥水 ₃	2				
						IV _g		γ		128.64~128.88m: 割れ目沿いに風化が進行する。径10mm程度で岩片状を呈する。	8							42														
						IV _g		γ		129.91~131.93m: 割れ目が少なく柱状コアが主体となる。	11							38							40.0	150	0.1	泥水 ₅	0			
						III _g				131.93~138.07m: 短柱状コアが主体となる。割れ目の一部は風化の砂状化部を挟む。	26							61														
						B _g			2	132.07~132.24m: 珪化している。径10~20mmの岩片状を呈する。微細な黄鉄鉱が晶出する。	28							36							10.0	100	0.2	泥水 ₃	0			
						B _g				137.07~138.07m: ゆる割れ目が多く認められる。	7							47														
						IV _g	bg	β		139.18~139.82m: 風化と変質で軟化する。	9							67														
						IV _g				●139.82~139.88m: 破砕帯(D-42)破砕幅は4.4cmである。 139.82~139.83m: 暗緑灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.1cmである。上端、下端境界の傾斜はともに52°である。 139.83~139.88m: 砂混じり礫状を呈し、暗緑灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は52°である。径3~5mmの岩片を多く含み、傾斜50°程度での配列が認められる。	6																					
						C _g		γ			11							91														
						B _g	III _g	β			6							23														
						C _g		γ			11							71														
						D _g	V _g	γ	3		β							81														
						E _g	cg	γ			9																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																	
																0	10	20	30	40												50																
		20	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	IVg	δ				19.59~19.80m: 10mm程度の間隔で割れ目が分布する。	10	CL'									6/5	39	150 / ケーシング	20.0	0.0	泥水 3	3																			
																						20.90m: 傾斜0°の割れ目に沿って、幅10mm程度で砂状化する。	12																									
																						21.79~26.82m: 割れ目沿いに砂状化している部分が多い。中硬質部と軟質部が交互に出現する。	10																									
																						21.90m: 径10mmの石英が傾斜80°の割れ目で切られる。	23																									
																						23.52m, 23.82m: 傾斜20~30°の割れ目に半面結状の灰褐色の粘土を1mm程度挟む。	27																									
																						25.31m: 傾斜20°の割れ目に径0.5~1mmの微細な絹雲母が晶出する。	11																									
																						25.94m: 傾斜74°の割れ目は、交差する5~10°の割れ目を切る。	7																									
																						27.91m: 傾斜20°, 幅1mmの石英脈が交差する80°の割れ目で切られ1mm程度変位する。	9																									
																						28.02~29.88m: 割れ目が多く、岩片~砂状化している。	8																									
																						29.88~30.82m: 風化が著しく、砕けしり砂状を呈する。軟質岩片が多く残存する。	4																									
		30	花崗斑岩	明褐灰	Eg	Vg	IVg	ε				●31.15~31.66m: 破砕部 破砕幅は43.1cmである。 31.15~31.25m: 粘土混じり砂状を呈する。明赤灰色の割れ目の密集部からなる。上端境界の傾斜は20°である。	3	D'																																		
																						31.25~31.28m: 礫質粘土状を呈し、明赤灰色の面結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は15~28°である。	2																									
																						31.28~31.29m: 灰黄褐色の凝り粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.0cmである。傾斜は28°である。	1																									
																						31.29~31.66m: 粘土混じり砂状を呈し、にぶい橙色の面結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は43°である・E B	2																									
																						●34.37~34.48m: 破砕部 破砕幅は10.8cmである。 34.37~34.38m: 黒褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.6cmである。傾斜は13°である。	3																									
																						34.38~34.48m: 礫質粘土状を呈し、明赤灰色の面結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は20°である。	1																									
																						●35.36~35.46m: 破砕部 破砕幅は8.7cmである。 35.36~35.39m: 粘土混じり砂状を呈し、灰黄色の面結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は37°である。	10																									
																						35.39~35.40m: 灰白色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.5cmである。傾斜は47°である。	8																									
																						35.40~35.46m: 粘土混じり~粘土質礫状を呈し、灰黄色の面結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は20~35°である。	8																									
																						●35.68~35.73m: 破砕部 破砕幅は4.1cmである。 35.68~35.72m: 粘土質礫状を呈し、明褐色の面結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は27°である。	10																									
																						35.72~35.73m: 灰黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.2cmである。上端、下端境界の傾斜はともに12°である。	8																									
												●35.92~35.95m: 破砕部 破砕幅は2.3cmである。 35.92~35.93m: 粘土状を呈する。灰オリブ色の面結した粘土状部からなる。傾斜は35°である。幅1~5mmで膨縮する。 35.93~35.94m: 灰白色の面結した砂状部からなる。 35.94~35.95m: 礫質粘土状を呈し、灰白色の面結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は45°である。	8																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																																											
			花崗斑岩	明褐灰	Cg	Vg	cg	δ		3	●63.75~63.85m: 破砕部 破砕幅は0.0cmである。 粘土・砂混じり礫状を呈し、にぶい褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は3°、下端境界の傾斜は47°である。	0 4 [0] 100	CL'																																														
																																灰褐	Eg	Vg	dg	ε	4		2 [0] 100	D'																			
				Eg	Vg	ε	3				17 [17] 100	CH'																																															
																																Dg	cg	γ	2				16 [15] 100	CL'																			
				Bg	IVg	bg	β	2			12 [12] 100	CL'																																															
																																Cg	Vg	cg	γ	3			10 [10] 100	CM'																			
				Bg	IVg	bg	β	2			9 [37] 100	CM'																																															
																																Dg	Vg	cg	δ	3			11 [11] 100	CL'																			
				Bg	IVg	bg	β	2			9 [26] 100	CM'																																															
																																Bg	IVg	bg	β	2			18 [18] 100	CM'																			
				Bg	IVg	bg	β	2			8 [0] 100	CM'																																															
																																Bg	IVg	bg	β	2			27 [27] 100	CM'																			
				Vg	cg	γ	3				9 [0] 100	CL'																																															
																																Bg	IVg	bg	β	2			15 [27] 100	CM'																			
			Cg	Vg	cg	γ	3			15 [15] 100	CM'																																																
																																Bg	IVg	bg	β	2			8 [0] 100	CL'																			
			Bg	IIIg	bg	β	2			11 [20] 100	CH'																																																
																																Dg	Vg	cg	δ	3			23 [57] 100	CH'																			
			Cg	Vg	cg	β	2			45 [63] 100	CH'																																																
																																Bg	IVg	bg	β	2			11 [11] 100	CL'																			
			Bg	IVg	bg	β	2				CM'																																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	記事	コア採取率 (最大コア長 R Q D L [%])	岩級区分	孔内水位 (N) 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給送水量 (L/分)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水圧 (MPa)	排水量 (L/分)																									
															N	深度																																				
			花崗斑岩	にぶい褐	灰褐	IV _g	bg	β	2	Dg	84.61~85.50m: 全体に軟質となる。	10	CM'		0	6/28	68	86 / セメントミルク		6/28	105	35.0	120	0.0	0.0	泥水 5	0																									
																												にぶい褐	Eg	Vg	cg	3	Dg	85.58~85.76m: 破砕部 破砕幅は14.4cmである。 85.58~85.63m: 粘土混じり礫状を呈し、にぶい褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は40'である。 85.63~85.64m: 淡黄色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.5cmである。傾斜は48'である。 85.64~85.76m: 粘土・砂混じり礫状を呈し、にぶい褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は32'である。	20	D'		6/21	94	28.0	50	0.0	0.0	泥水 3	0							
																																														にぶい橙	Eg	Vg	cg	3	Dg	88.38~88.43m: 破砕帯 (D-41) 破砕幅は3.9cmである。 88.38~88.42m: 砂混じり礫状を呈し、にぶい褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は50'である。 88.42~88.43m: 明黄褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.5cmである。傾斜は50'である。 ●88.88~88.94m: 破砕帯 (f-b-2-14) 破砕幅は5.4cmである。 88.88~88.92m: 粘土・砂混じり礫状を呈し、にぶい黄褐色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は38'である。 88.92~88.94m: 灰白色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は2.0cmである。傾斜は30'である。 ●91.69~91.76m: 破砕部 破砕幅は5.7cmである。 91.69~91.70m: 明褐色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.8cmである。上端、下端境界の傾斜はともに51'である。 91.70~91.76m: 粘土混じり礫状を呈し、にぶい褐色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は45'である。 91.76~94.80m: ハンマーの軽打で径10~30mmの岩片状に崩せる。 94.80~97.96m: 割れ目が少なく柱状を呈する。
				緑灰	Bg	III _g	bg	β	2	Dg	98.48~101.31m: 割れ目沿いに砂状化、長石は概ね白濁化している。	10	CH'		6/30	102	ダブルコアチューブ / ダイヤモンドビット / アンチドリフト		6/30	120																																
																													緑灰	Bg	IV _g	bg	β	2	Dg	101.32~102.05m: 未風化な短柱状コアが主体となる。	10	CM'		6/30	121	86 / 泥水										
				明褐灰	Dg	Vg	cg	β	2	Dg	103.70~104.65m: 風化で軟化する。所々に幅1~3mmの軟質な白色の粘土が脈状に分布する。	10	CL'		7/1	132																																				
																												灰褐	Bg	IV _g	bg	β	2	Dg	104.65~115.99m: 硬質であるが割れ目がやや多く短柱状コアが主体となる。密着度が低いゆわ割れ目を含む。	10	CM'		7/1	97												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																																																																																																																																																																																																																																																																																																
													0	50																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
130	74.47	133.75	+	花崗斑岩	明褐灰	CG	Vg	cg	β	●128.82~128.97m: 破砕帯 (D-44) 破砕幅は12.1cmである。128.82~128.87m: 砂混じり礫状を呈し、灰赤色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は30°である。128.87~128.88m: 暗緑灰色の礫混じり粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.5cmである。傾斜は63°である。128.88~128.97m: 粘土・砂混じり礫状を呈し、灰赤色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は62°である。	0	CL'	0												0.0	泥水6	0																																																																																																																																																																																																																																																																																														
																												74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	δ	130.79~131.95m: 割れ目沿いに砂状化している。131.79m: 傾斜5°の割れ目上盛割は幅10~15mmで砂状化している。灰白色の粘土脈を伴う。	0	D'	0																																																																																																																																																																																																																																																																																	
																																																					74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ	●133.75~133.92m: 破砕部 破砕幅は15.4cmである。133.75~133.76m: 明緑灰色の粘土を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は0.1cmである。傾斜は45°である。133.76~133.92m: 礫質粘土状を呈し、オリブ灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は35°である。	0	D'	0																																																																																																																																																																																																																																																								
																																																																															74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ	●134.15~134.23m: 破砕帯 (f-b-2-20) 破砕幅は7.4cmである。134.15~134.19m: オリブ灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は2.0cmである。傾斜は75°である。134.19~134.23m: 粘土混じり礫状を呈し、オリブ灰色の固結した礫状部からなる。	0	CL'	0																																																																																																																																																																																																																														
																																																																																																									74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ	134.23~160.00m: 花崗斑岩である。135.34~145.65m: 割れ目が多く岩片状~一部土砂状を呈する。136.54~136.56m: 暗緑灰色の礫状を呈する。	0	D'	0																																																																																																																																																																																																				
																																																																																																																																			74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ	141.96~142.23m: 割れ目が細かく交差し細片化している。一部で幅1~2mmで砂状化している。	0	CL'	0																																																																																																																																																																										
																																																																																																																																																													74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ	143.57~143.70m: 上端の傾斜60°、下端の傾斜70°の割れ目沿いに緑泥石化する。径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と幅5~10mmの石英脈を伴う。	0	CL'	0																																																																																																																																																
																																																																																																																																																																																								74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ	145.65~148.26m: 風化と変質で軟化が著しい。砂礫~礫質砂状で、一部灰白色~暗緑灰色の粘土脈を挟む。	0	D'	0																																																																																																																					
																																																																																																																																																																																																																		74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ	147.65m: 傾斜57°の割れ目に幅1~2mmの砂~シルト状のマンガン脈を挟む。	0	CL'	0																																																																																											
																																																																																																																																																																																																																																												74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ	148.26~149.19m: 上端の傾斜55°、下端の傾斜50°の割れ目に沿って径30mm以下の岩片状を呈する。	0	CL'	0																																																																	
																																																																																																																																																																																																																																																																						74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ	149.19~149.67m: 風化で砂~礫状を呈する。灰白色の粘土が点在する。下端に幅1mmで暗緑灰色の砂~シルト状の緑泥石脈を挟む。	0	CL'	0																																							
																																																																																																																																																																																																																																																																																																74.80	134.23	+	アプライト	明褐灰	CG	Vg	cg	γ		0	CL'	0													

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.

3

事業・工事名

ボーリング名	H27-B-3		調査位置					北緯				
発注機関					調査期間					東経		
調査業者名					主任技師	現代理場人	コ鑑定者			ボーリング責任者		
孔口標高	7.06 m	角	180° 上	90°	方	北 0° 西 270°	東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°	使用機種	試錐機	ハンマー 落下用具
総掘削長	180.00 m	度	0°	45.0°	向	北 0° 西 270°	東 90° 南 180°	53.0°	90°	エンジン		ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
														0	50											
		5.86		埋戻土	黒褐 にぶい 黄褐					0.00~1.70m: 埋戻土である。 試掘の埋戻土である。 砕石と礫混じり砂、礫質砂からなる。								5/29	0		試験/試掘	0.0	0	0.0	0	0
		1.70		盛土	にぶい 黄褐					1.70~10.05m: 盛土である。 砂、砂礫、モルタル等からなる。								5/30	72			60	0.0	0	0	0
		10.05		盛土	にぶい 黄褐													6/1	330		140 / ケーシング	10.0	0.0	0.0	3	3
		10.05		盛土	にぶい 黄褐													6/2	28		ダブルコア / チェーン / ダイアモンド / ビット	10.0	0.1	0.1	3	3
		10.05		盛土	にぶい 黄褐													6/3	28		ダブルコア / チェーン / ダイアモンド / ビット	10.0	100	0.2	5	5
		10.05		盛土	にぶい 黄褐													6/3	35		ダブルコア / チェーン / ダイアモンド / ビット	10.0	150	0.1	15	15
		10.05		盛土	にぶい 黄褐													6/4	70		ダブルコア / チェーン / ダイアモンド / ビット	10.0	150	0.1	15	15
		10.05		盛土	にぶい 黄褐													6/4	83		ダブルコア / チェーン / ダイアモンド / ビット	10.0	150	0.1	15	15
		10.05		盛土	にぶい 黄褐													6/4	87		ダブルコア / チェーン / ダイアモンド / ビット	50.0	100	0.2	20	20
		10.05		盛土	にぶい 黄褐													6/4	90		ダブルコア / チェーン / ダイアモンド / ビット	10.0	150	0.1	15	15
		10.05		盛土	にぶい 黄褐													6/4	120		ダブルコア / チェーン / ダイアモンド / ビット	10.0	150	0.1	15	15

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級	孔内水位 測定月日	標準貫入		試験 N値~深度	原位置試験 (孔内水平盤)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm)	給圧 (kN/MPa)	回転 数 (rpm)	送水 量 (MPa)	排水 量 (L/分)																																									
													N												図																																								
70			+	花崗斑岩	明褐灰	Eg	cg	ε	3	68.06~68.93m: 風化で砂礫状を呈する。	2 (0)	D'																																																					
																											105																																						
																												100	20.0	0.1	泥水15	15																																	
																																	6/9																																
																																		97	150																														
																																							60	50.0	0.2	泥水20	20																						
																																												86	100																				
																																																	78	86/泥水															
																																																						120	20.0	150	0.1	泥水15	15						
																																																												6/10					
																																																													66	86/泥水			
94	30.0	100																																																															
					234	86/セメントタイプ																																																											
										74	50.0	150																																																					
															6/11																																																		
																24	30.0	100																																															
																					54	10.0	0.1	泥水7	7																																								
																										83	86/セメントタイプ																																						
																															39	20.0	65	0.1	泥水5	3																													
																																					39	86/セメントタイプ																											
																																										6/12																							
																																											116	150	0.1	泥水10	10																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
														N	値																	
										95.96m: 傾斜60°の割れ目に幅1mmの軟質な灰白色の粘土脈を挟む。									116													
																				83		20.0	150	0.1	泥水10	10						
																				33												
																				69												
										97.07m: 傾斜15°、幅2~3mmの石英脈が分布する。 98.02m: 傾斜30°、幅2~5mmの石英脈が分布する。 97.69~97.78m: 固結した白色の粘土が、幅1~2mmの脈状~径2~3mm斑点状に点在。												77		40.0	100	0.2	泥水15	15				
																				69												
										●99.50~99.68m: 破砕帯(H-3d) 破砕幅は13.0cmである。 99.50~99.56m: 粘土混じり礫状を呈し、明黄色色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は43°である。 99.56~99.57m: 礫混じり粘土状を呈し、灰白色の固結した粘土状部からなる。傾斜は38°である。 99.57~99.68m: 砂混じり礫状を呈し、褐色色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は37°である。														107		50.0						
																				90		20.0	0.1	泥水10	10							
										101.78~104.28m: 割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。										83												
										104.28~105.88m: 硬質で割れ目が少ない柱状コアを呈する。 白色の巾着割れ目が分布する。											52			0.2	泥水18	18						
										105.88~108.71m: 硬質で割れ目がやや多い短柱状コアが主体となる。 風化で褐色化した割れ目が多く、細片化し易い。											54											
										107.30~108.71m: 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。										63		20.0	150	0.1	泥水15	15						
										108.71~112.27m: 硬質で割れ目が少ない柱状コアを呈する。										73												
										111.14m: 傾斜70°の割れ目に幅1~2mmで緑色の粘土~シルトを挟む。 径0.5mm以下の微細な網雲母が点在する。											67											
										112.27~113.27m: 硬質であるがやや割れ目が多い短柱状コアを呈する。一部割れ目に砂~シルト状緑泥石が見られる。 113.27~114.68m: 硬質で割れ目が少ない柱状コアを呈する。傾斜70~80°の高角割れ目が主体となる。 114.24m: 傾斜80°の巾着割れ目扱いに径2~3mm暗緑灰色の緑泥石が点在する。													81		20.0	0.1	泥水10	10				
										●115.00~115.12m: 破砕帯(H-4) 破砕幅は8.5cmである。 粘土混じり礫状を呈し、淡黄色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は75°、下端境界の傾斜は80°である。一部で、幅1mm以下の巾着割れ目状の軟質な粘土を伴う。													67									
										117.32~117.39m: 割れ目扱い軟化している。 117.39~119.00m: 短柱~柱状コアを呈する。下部に割れ目が多い。												81										
										●119.11~119.25m: 破砕帯(D-1) 破砕幅は12.3cmである。 119.11~119.16m: 粘土混じり礫状を呈し、暗緑灰色の固結した礫状部からなる。上端境界の傾斜は50°である。 119.16~119.18m: 緑灰色の粘土状を呈する。未固結の粘土状部からなり、幅は1.0cmである。傾斜は60°である。 119.18~119.25m: 粘土混じり礫状を呈し、暗緑灰色の固結した礫状部からなる。下端境界の傾斜は43°である。														81								